平成 15年度　年報

市立大町山岳博物館

平成 15 年度の活動から

館長　柳澤昭夫

昨年に引き続き「山博おもしろミニゼミ」をおよそ９０回にわたって展開し、約 2,400 名の参加者がありました。併せて地元紙「大糸タイムス」へ「山博ゼミ」を約５０回連載しました。大勢の方から好評をいただきました。「おもしろミニゼミ」も「山博ゼミ」も内容は多岐にわたりましたが、山博の素顔が少し見え、地域の人に親しみを持ってもらうことができたと喜んでいます。訪れた人と博物館との間に学芸員が介在することに、大きな意義があったと思います。

「志水哲也写真展　黒部」と「日本山岳画協会　大町展」は、期間中数回にわたってギャラリートークを交え好評でした。

また「安曇地方の絶滅危惧植物の生活史展」「クロツバメシジミの生活史展」「教科書に登場した北アルプス　―「燕岳に登る」って知っていますか？」「中部山岳鳩協会展　―伝書鳩を使った山岳通信」等を開催しました。小企画展とは言え、学芸員の調査研究成果を反映し、充実した内容になりました。「穂苅三寿雄作品展　北アルプス黎明」はガラス乾板に残された貴重な作品の展示でした。

恒例となった「春の動物写生大会」「小鳥の声を聞く会」「キノコ学習会」は相変わらず人気がありました。

本年実施した「鹿島槍本谷で遊ぼう」「自分の山を作ろう　山岳陶芸にチャレンジ」「親子探鳥会」「緊急カモシカ隊出動」といった学習会の企画は、体験して考える、自然の不思議にふれて感性を豊かにするこれからの博物館の教育活動の試みとして、まだまだ課題を残しておりますが意義があったと考えています。以上の教育普及事業の多くは財団法人自治総合センターのコミュニティ助成金を得て実施できました。山野でのワークショップは安全の確保などに課題はありますが、「緊急カモシカ隊出動」で協力いただいた東京コミュニケーションアート専門学校のように大勢の方の御協力によって充実しはじめたと思います。

ライチョウの生息状況調査・繁殖環境・捕食可能性動物調査を蓮華岳から爺ヶ岳にかけて行いました。飼育ライチョウの病理及び遺伝学的検査も行いました。

安曇地方の絶滅危惧植物の生活史と増殖法の研究、コマクサの生活史の研究を行い、展示に反映し効果をあげました。鹿島槍荒沢奥壁の冬期初登攀に至る過程をアプローチルートから調査し、昭和初期の積雪期登攀史の研究に取りかかりました。

調査研究は資料収集とともに博物館の展示のバックボーンです。博物館事業として見えにくいところですが、一層の充実に努めたいと思います。

年度末のあわただしい中でしたが、環境省の委託を受け信州大学農学部のアルプス圏フィールド科学研究センターの加藤正人助教授との共同研究で、爺ヶ岳と蓮華岳の航空写真のデジタル処理を行い、1980 年、1990 年、1992 年に行ったライチョウ生息状況調査の成果、縄張り、個体確認ポイント、巣の位置などを提示するデータベースを作成することができまし

た。このデータベースに今後、融雪や天敵等に関する情報、新しい調査結果等を加えれば、ライチョウはもとより生態系の総合的な解明に役立つと考えています。今後は博物館の調査のみならず研究者等との情報交換を行い、このデータベースに G.P.S.を活用するなど、精度の高い多様な情報を追加することが課題です。

これからは、こうした科学的で豊かなデータベースを、博物館の新たな教育活動の展開にも役立てたいと期待しております。

我が国の研究者の間では、ライチョウの生理、病理、遺伝学的研究の不足と、それらの研究の重要性が指摘され、飼育の必要性から当館への期待の声が多い中、同じく環境省の委託事業でノルウェーのトロムセ大学極地生物研究所、オスロ大学等を訪ね、飼育に関する施設を視察し、飼育方法や研究について関係者と意見交換を行い、有益な資料や知識を得ることができました。併せてライチョウに関する研究論文や資料を収集することができました。

わけても飼育ハンドブックを入手し翻訳することができたので、今後飼育に関する検討を行う上では貴重な資料を手に入れたと言えましょう。収集した文献等については検討考察し、我が国の飼育や調査研究と合わせて整理し、今後の飼育や調査研究のあり方について検討する際の資料としたいと思います。

大町の山の登山史の解明、環境問題と博物館教育、これからのライチョウ研究のあり方など、依然として課題は多いのですが、北アルプスという恵まれた環境のもとで、地域の人々と係わりを深め、関係機関の一層の協力をいただきながら、取り組んでゆきたいと思います。

Ⅰ　展示事業

１．企画展示・特別展示

（１）企画展　志水哲也写真展「黒部」（担当　岑村）

①会　期：平成１５年４月１９日（土）～５月３０日（金）

②会　場：1階ホール・特別展示室

③概　要：

黒部に精通する登山家・志水哲也氏（宇奈月町在住）の写真家宣言第一弾の作品展として、信州側の黒部の玄関口としては初めて開催した。

④主な展示資料：全紙・全倍・2×1.5mの大パネル　計４６点。

⑤見学者数：４，６２５人

⑥関連イベント：スライドトーク　４月２０日（日）

講堂にて開催。スライドを映写しながら、黒部の谷の魅力と撮影時のエピソードを語っていただいた。視聴者６５名。

⑦所　見：

初冬の下ノ廊下など、ほとんど誰も知らない黒部の凄みを迫力のある写真によって紹介でき、多くの見学者に新鮮な感動と黒部理解の機会を提供することができた。

（２）企画展　安曇地方の絶滅危惧植物の生活史展（担当　千葉）

①会　期：平成１５年５月１日（木）～５月１８日（日）

②会　場：２階展示室およびレクチャーホール

③概　要：

2002年に刊行された長野県版レッドデータブックに基づき、これまで博物館で行ってきた研究成果、サクラソウ、フクジュソウ、ササユリの生活史をはじめ、それらに関わる昆虫についてパネルおよび実物の植物を用いて紹介した。

あわせて、「石川県白山における高山植物の馴化試験」の研究成果についても標本やパネルを用いて紹介した。

④共　催：日本産草本植物の生活史研究プロジェクト

⑤監　修：清水建美（信州大学名誉教授　金沢大学名誉教授）

⑥主な展示資料：パネル・実物展示

⑦見学者数：１，８６９名

⑧所　見：

絶滅危惧植物の生活史を対象とした研究は、全国的のもほとんど例が見られず、一般的にも認知されてきた保全の意識が高まるなか、詳細かつわかりやすく紹介できたと思う。また白山における高山植物を対象とした研究の紹介は今後、各地で保全にあたる人たちへ有益な情報をもたらすことができたと思う。

（３）特別展　穂苅三寿雄作品展「北アルプス黎明」（担当　岑村）

①会　期：平成１５年６月８日（日）～７月６日（日）

②会　場：講　堂（入場無料）

③概　要：

山岳写真家としても知られる槍ヶ岳山荘創設者、穂苅三寿雄の遺作展。穂苅家に残されたガラス乾板 300 枚の中から、６０年以上の時を経て焼き付けられた作品群を展示。

④主な展示資料：半切６７点

⑤見学者数：３９５名（芳名簿記帳者数）　実際はこの３～４倍と推定される。

⑥関連イベント：

a. オープニング・セレモニー（担当　関）

・６月８日（日）、開会式の後、穂苅貞雄氏が作品解説を行った。参加者約２０名。

b. ミニゼミ（担当　関）

・６月８日（日）「槍ケ岳開山・開拓記」。参加者３名。

⑦展示協力者一覧（敬称略）：

穂苅　貞雄（三寿雄長男）　　穂苅　康治（貞雄長男）

⑧所　見：

作者の自然観、山を愛する人々への敬愛の情が、その時代性とともにモノクロの作品からにじみでて、見学者に新たな感動を与えることができた。

（４）企画展　教科書に登場した北アルプス　―「燕岳に登る」って知っていますか？（担当　関）

①会　期：平成１５年６月１４日（土）～７月６日（日）

②会　場：２階レクチャーホール

③概　要：

北アルプスなどの山岳に関する文章が掲載された昭和初期の教科書を展示。「燕岳に登る」は、『尋常小学国語巻十一』と『初等科国語七』に掲載された文章で、これらの教科書は、昭和１３年（1938）４月から２０年（1945）８月の太平洋戦争の終わりころまで、尋常小学校と国民学校で６年生に使用された。この文章は、初めて北アルプスの燕岳に登った少年の初々しく素朴な緊張と興奮、登山の苦しさと感動が、臨場感あふれる表現で素直につづられた作品である。このほか「白馬岳」と「日本の高山」という文章が掲載された教科書もあわせて展示した。

④主な展示資料：

・国民学校初等科国語教科書『初等科国語七』（復刻版）・『尋常小学校国語読本巻九』（一部）・『尋常小学校国語読本巻六』・燕岳（写真）２点・迫撃砲を引いて北アルプスに登山する松本五十連隊（写真・北沢芳久氏蔵）

⑤関連イベント：

ａ．ミニゼミ

・６月２２日（日）「教科書に登場した北アルプスー「燕岳に登る」って知っていますか？」を開催し、展示解説を行った。参加者２４名。

⑥展示協力者一覧（敬称略）：

横山　駒子　　犬塚　幸士　　尾日向淑子　　北沢　芳久

⑦所　見：

「燕岳に登る」は、当時の学校集団登山の様子や山のとらえ方がうかがえ、懐かしいだけでなくて若い世代にも新鮮な文章である。同時に、この作品を通して現在の学校集団登山についても考えていただけたのではないだろうか。

（５）特別展　第５回　日本山岳画協会大町展（担当　関）

①会　期：平成１５年月７月１２日（土）～８月３１日（日）

②会　場：１Ｆホール・特別展示室

③概　要：

平成１５年で創立６７年を迎えた「好んで山を描く画家の集団」日本山岳画協会による絵画展。会員が描いた油彩などの山岳風景画３０点を展示した。

④展示作家と作品（敬称略）：

岩 切 岑 泰「マウントセフトン」(P30･油彩)「雨上がりのツェルマット」(変 40･油彩)
上 田 太 郎「槍ヶ岳（北穂高岳より)」(F100･油彩)「秋の東鎌尾根」(S20･油彩)
江 村 真 一「冬の穂高」(F100･油彩)「剣岳（仙人池より)」(F20･油彩)
熊 谷　　榧「カイラス山」(S40･油彩)「雪の食卓」（F50･油彩)
後 藤 三 男「鹿島槍冠雪」(F50･油彩)「燕岳秋景」（F12･油彩)
須 藤 卓 男「槍沢を下る」(F30･油彩)「槍沢でひと休み」（F20･油彩)
高橋てる子「針ノ木岳とお花畑」(F30･油彩)「水ぬるむ（尾瀬）」（F30･油彩)
武 井　　清「滝谷夕照（北穂高)」(F80･油彩)「4 月の滝谷」（F30･油彩)
中 村 勝 久「白馬八方新雪」(F30･油彩)「唐松岳（春）」（F10･油彩)
平 沢 利 夫「戸隠西岳」(F40･油彩)「黒姫山」（F20･油彩)
堀 越　　昇「マナスル三山遠望(ﾈﾊﾟｰﾙ)」(F50･油彩)「ﾌﾞﾗｲﾄﾎﾙﾝの朝」(M20･油彩)
牧　　潤 一「朝のキリマンジャロ」(M100･油彩)「ケニア山遠望」（P20･油彩)
増 田 欣 子「チョモランマ黎明」(F100･油彩)「ヤムドク湖（ﾁﾍﾞｯﾄ）」（M20･油彩)
松 原 修 司「待春八海山」(F60･水彩)「芽吹く頃」（F30･水彩)
若 林 晴 男「安曇野秋景」(F60･油彩)「爺ヶ岳五月」(F20･油彩)
以上、１５作家より計３０点

⑤見学者数：１０，７７７名

⑥関連イベント：

ａ．オープニングセレモニー

・７月１２日（日）博物館玄関前にて

日本山岳画協会代表・牧潤一氏らにご出席いただき、テープカットを行った後、館内で出展作家による作品鑑賞の案内を行った。参加者大人２０名。

ｂ．ギャラリートーク

・７月１９日～８月２３日の毎週土曜日

ミニゼミの一環として出展作家の方々に作品解説や作画活動の様子などをお話しいただい

た。全６回開催。延べ１４２名参加。

⑦所　見：

当館では昭和５９年（1984）から、おおむね５年ごとに日本山岳画協会大町展を開催している。５回目をかぞえる今回は、会期が夏の観光シーズンと重なり、芳名帳を見ると県外からも大勢の皆様にお出でいただいた。会期中の週末にはギャラリートークを開催。ビデオやパソコンを使うなど、毎回それぞれの作家方に趣向をこらしたお話しをしていただき、参加者には好評であった。

（６）企画展　動物写生画展（担当　関）

①会　期：平成１５年７月１９日（土）～２７日（日）

②会　場：講堂

③概　要：

春の動物写生大会に参加した園児、児童・生徒が描いた博物館付属園の動物や風景の絵画全作品 170 点を展示。最終日にはホールで優秀作品の表彰式を開催した。

⑤関連イベント：春の動物写生大会　４月２０日（日）、２７日（日）、５月１１日（日）

付属園にて開催（協力：山博友の会、講師：荒井泰三先生）。

⑦所　見：

「春の動物写生大会」の第１日目、４月２０日は雨天により中止したが、昨年の参加者数１５２名を上回る結果となった。より多くの園児、児童・生徒に参加してもらえるよう、今後は広報に工夫するとともに、展示についても飼育動物の紹介なども行ないたい。

（７）クロツバメシジミの生活史展（担当　清水）

①会　期：平成１５年９月６日（金）～９月２８日（日）

②場　所：２階レクチャーホール

③概　要：

クロツバメシジミは河川敷などに生息しているシジミチョウのなかまで、全国的には近年生息個体数の減少が心配されている。平成１３年から１５年までの大町市を中心に実施した野外調査より得られた成果を展示した。

④主な展示資料：

・クロツバメシジミ生体（卵・幼虫・蛹・成虫）・食草・吸蜜植物

・クロツバメシジミの生息状況、生態写真２５点

⑤見学者数：２，０５９名

⑥関連イベント：

ａ．ミニゼミ

・９月１３日（土）「クロツバメシジミの生活」。参加者１６名。

⑦所　見：

小さな昆虫をとおして、身近な自然や環境について考えてもらうことができたと思われた。

（８）キノコ展（担当　千葉）

①会　期：平成１５年９月２６日（金）～９月２８日（日）

②会　場：講　堂（入場無料）

③概　要：

パネルや顕微鏡をとおしてキノコの正体やミクロの世界を紹介。また今年採れる生のキノコを展示した。

④主な展示資料：実物標本 140 点・写真解説パネル

⑤見学者数：１１４名

⑥関連イベント：

ａ．キノコ学習会

・９月２８日（日）に講師 飯島八郎氏、太田勇氏、清沢由之氏、高野哲哉氏を招き、参加者３２名で鷹狩山周辺において、キノコの生態や役割について説明を受けながら、観察を行った。採集したキノコは、自らが図鑑や展示標本などを見ながら同定し、その後、４人の講師から個別に指導を受けた。

⑦所　見：

本年度は夏期にマツタケが豊作であったことから､多種類のキノコの発生が期待されたが、その後の天候不順により思ったほどの収穫はないと思われていた。そのなかで結果的に 140 種という多種類を採集・展示できたことは、来館者に驚きと興味を与え、大きな効果が得られたと思う。

キノコ学習会では､採集したキノコを自らが同定するというのは初めての試みで､子ども・大人を問わず好評だった。

（９）中部山岳鳩協会展―伝書鳩を使った山岳通信―（担当　関）

①会　期：平成１５年１０月４日（土）～１１月９日（日）

②会　場：２階レクチャーホール

③概　要：

山岳遭難の防止と救助を目的に、伝書鳩を利用した山岳通信を考案した三田旭夫（東京出身）は、昭和１１年（1936)、大町に中部山岳鳩協会を設立した。以後、昭和１６年まで、北アルプス登山の玄関口である大町駅前で、登山者に伝書鳩を貸し出す。ここでは、平成１０年（1998）に三田啓一氏（旭夫長男）から寄贈された中部山岳鳩協会に関する資料から、実物資料や写真パネルを展示し、その活動について紹介した。

④主な展示資料：

・伝書鳩事業目論見書・日本北アルプス山岳鳩通信の栞・地形図・鳩舎内鳩個室出入口扉・休憩室兼携帯用鳩籠・鳩券綴・鳩便用箋・「第１回山岳遭難防止の夕」チラシ・「山鳩会」色紙・関係写真図表など約３０点

⑤見学者数：３，９９５名

⑥関連イベント：

ａ．ミニゼミ

・１０月１２日（日）「伝書鳩を使った山岳通信－中部山岳鳩協会展の資料の紹介－」を開催し、展示解説を行った。参加者２９名。

⑦展示協力者（敬称略）：　　三田　啓一

⑧所　見：

本展では、東京都在住の三田啓一氏（旭夫長男）から平成１０年に当館へ一括寄贈いただいた中部山岳鳩協会に関する約 200 点の資料から、その一部を展示した。資料寄贈から数年が経過したが、ようやく資料の整理・登録を完了して展示することができた。本展のテーマは日本の登山史から見ると部分的な事柄であるが、大町地域での山の歴史としては特徴的である。今後は山岳通信史全体を探り、常設展示へ反映できればと考える。

２．常設展示

（１）昆虫標本および植物標本の補充（担当　清水・千葉）

①時　期：平成１５年４月～展示中

②場　所：２階展示室

③概　要：

カブトムシ・クワガタムシなどの標本やコナラ・クリの果実を用いて生態展示の一部として組み込んだ。

（２）コマクサのおはなし（担当　千葉）

①時　期：平成１５年７月～展示中

②場　所：２階展示室

③概　要：

高山植物の女王とも称されるコマクサであるが、興味はあるものの実態についてこれまでに詳細について明らかにされることはなかった。このため、2003 年から生活史の観察をはじめ、あわせて高山で咲くコマクサへやってくる昆虫について観察を行い、明らかになったことは随時、写真・解説パネルにして展示した。

（３）カエデの果実を使った占い（担当　千葉）

①時　期：平成１５年１１月～平成１５年３月

②場　所：２階展示室

③概　要：

観覧者は種子の形態はいろいろで、また種子は風や動物、水などによって運ばれることを理解した後、体験型学習としてカエデの果実の落下状態の観察ができると同時に、落ちた先で大吉など運勢を占うことができるようにした。予想外の好評に種子の消耗が激しく、ストックが無くなったため五ヶ月で終了となった。

（４）　１階展示ケースおよび３階リニューアル（担当　関・岑村）

①時　期：平成１６年１月１０日～展示中

②場　所：１階ホール・３階展望室

③概　要：

八王子岳友会（平成１５年１２月散会）より、1 階ホールのピッケル展示用ケースの新設と３階展望室の全面リニューアル一式の寄付（265 万円相当）を受けた。

④主な展示資料：

ａ．１階ホール　　ピッケル用展示ケース１台（平柳一郎氏寄託資料ほかを展示）

ｂ．３階展望室　　写真台５台（雪形、山岳、付属園の紹介）

展示平ケース（槍・穂高周辺の地形模型を展示）

⑤関連イベント：

ａ．寄付贈呈セレモニー

・１月１０日（土)、岳友会の代表・篠氏ら８名と腰原市長に出席いただき、１階ホールで寄付贈呈セレモニーを開催。目録の贈呈を行い、新展示の一般公開を兼ねて新しくなった展示の説明を行った。

⑥展示協力者（敬称略）：　八王子岳友会（代表・篠　繁市）

⑦所　見：

平柳氏より戦前からのスイスや国内のピッケルを寄託いただいているが、これまで展示スペースの都合上、収蔵庫に納めていた資料も含めて今回新しく新設した専用展示ケースに収めて展示することができた。３階部分は昭和５７年（1982）の新館オープン以来、大規模な改修は行っておらず、冷房設備設置や壁紙の張り替えなども合わせてリニューアルすることができた。特に写真台を大幅に増やし、白馬から安曇野周辺雪形や大町市内の標高 2,400m 以上の山岳、付属園での活動や飼育動物などを豊富な写真で紹介した。また、冷房設置により、夏期の展示室内の環境は大きく改善されると思う。

（５）「パレットライブラリー一部変更」（担当　千葉・清水）

①時　期：平成１６年１月１０日～展示中

②場　所：２階常設展示室

③概　要：

パレットライブラリーは、耐久性が低く箱の落下や開閉による破損が多かったため、一部のみの展示となっていたが、八王子岳友会から寄贈された展示平ケースを使い、開いた状態で固定し展示することにより展示内容の充実を図った。

④所　見：

今までは、箱を開いた方しか見ることができなかったが、固定展示とすることにより、より多くの方の目に触れることとなった。また、展示場所を剥製等実物資料の近くとすることにより展示内容の理解度を深めたものと思われる。

Ⅱ　調査研究事業

１．調査研究

（１）ライチョウ生息状況調査（担当　宮野・清水・千葉）

蓮華岳において、平成１５年６月２３日～２９日（抱卵期）述べ８１名、７月２９日～８月１日（孵化確認）２名で調査した。調査の結果、推定ナワバリは９ヶ所。推定生息数は２１～２３羽。ナワバリは針ノ木小屋から蓮華岳東尾根にかけて位置し、確認した巣は２個であった。産卵数は５と４個、平均 4.5 個、孵化率は 88.8%であった。これらの数値は、昨年の平均 5.9 個、孵化率 78.1%と比較すると卵数は少ないが孵化率は高い値であった。

（２）ライチョウ生息・繁殖環境調査解析（担当　宮野・清水・千葉）

ライチョウの生息環境を把握するための資料として、爺ヶ岳・蓮華岳の積雪状況を知るための航空写真を撮影した。過去の生息状況調査により明らかとなった生態、巣場所とナワバリ範囲（推定を含む）、植生環境などと照合し繁殖可能範囲に関する試案を求めるための資料とする。解析については準備を進めている。

（３）ライチョウの外敵可能性動物調査（担当　清水・千葉・関）

ライチョウ生息状況調査・植生復元整備確認調査・高山蝶調査と併せて実施した。ライチョウの抱卵期である平成１５年６月２３日～６月２５日（蓮華岳）、育雛期である７月２２日から７月２５日（爺ヶ岳～赤沢岳）、７月２９日～８月１日（蓮華岳～スバリ岳）、８月２１日～８月２３日（唐松岳～五竜岳）において実施した。ライチョウの生息域である稜線部の登山道を中心に糞・足跡などの痕跡確認調査を主体とした。調査の結果、蓮華岳～スバリ岳の間では、キツネ・テン・オコジョ・ハシブトガラスを確認。唐松岳～五竜山荘の間ではキツネ・テン・ニホンザルを確認した。また、近年北アルプス稜線部各地でニホンザルが確認されいることから、ライチョウに与える影響の有無について調査をする必要があると思われた。

（４）ライチョウ病理検査および遺伝学的検査（担当　清水）

飼育下における新たな病気に対する対策、予防、治療の調査研究を行うために、日本大学・岐阜大学に検査解析を依頼した。平成１５年７月１２日および１０月２４日に飼育個体から血清を採取し、遺伝学的情報などを解析した。これにより、将来飼育個体および野生個体の識別や、遺伝子の単一化を防ぐ指針として抗体検査を行い病歴の調査や健康状態の把握となるように疾病診断の指標となるような基礎的資料の蓄積となる。野生個体との比較も併せて行ったが、飼育個体は高尿酸値の傾向が認められ、７月より１０月の値も高くなっていることも分かり何らかの病変があることが考えられた（健康状態の把握診断に役立った）。また、寄生虫・住血原虫は検出されなかった。

この結果および死亡個体の解剖検査結果と併せて、現在給餌している飼料成分の解析（シュウ酸含有量）を実施し、病理との関連を探っている。

（５）植生復元整備確認調査（担当　千葉・清水）

唐松岳において平成１５年８月２１～２３日に２名にて実施。

５年経過したムシロによる緑化工法のモニタリングを行うため、№１～１０（１×１ｍまたは５０×５０㎝)において出現種数および植生の動態について調査を行った。調査の結果、施工後全ての調査枠において少なからず人為的インパクトが生じていることが明らかになった。その中で、調査枠は（1）踏圧が強く緑化の効果が全く見られない場所。(2）踏圧は弱いものの植被率が低く、緑化効果が停滞している場所。(3）実生の定着や周囲からの植物の進入が認められ、大幅に植被率が増加し、緑化効果の見られた場所の３つのパターンが認められた。

（６）乗鞍岳ライチョウ生息状況調査（担当　清水・関）

平成１５年６月１３日―１５日、信州大学・長野県自然保護研究所・日本野鳥の会長野県支部・日本野鳥の会岐阜県支部・信州ワシタカ類渡り研究グループ・乗鞍の自然を考える会との合同調査に２名参加した。

目視による個体確認、テープレコーダー使用による鳴き声の反応確認、捕獲標識付けを行い、個体数・ナワバリ範囲の特定を行った。調査手法の習得になり大変有意義であった。成果については、信州大学でまとめている。

（７）大町市におけるクロツバメシジミの生息状況（担当　清水）

平成１３年調査からの継続調査として高瀬川を中心として大町市平から松川村・池田町までの間の生息地の確認とその環境、生態観察をとおして１年間の発生回数の確認について調査した。

調査は平成１５年４月２２日～１０月２１日まで２５回行った。発生回数は個体数のピークより５月中旬・７月上旬から７月下旬・９月中旬の３回であったと考えられた。

本年の調査で新たに、本種の食草であるツメレンゲの自生地をいくつか確認した。その中には個体数は非常に少ないが本種の生息の確認も認められた。平成１６年度も継続調査を行う計画である。

（８）大町市に生息する高山蝶　―特にミヤマモンキチョウについて―（担当　清水）

大町市はミヤマモンキチョウの北アルプスにおける分布の北限地域にあたるが、分布には疑問が多い。爺ヶ岳から鹿島槍ヶ岳にかけて本種の生息確認を中心に、大町市における高山蝶の生息状況を調査した。

調査内容は、成虫の確認のほか幼虫の食餌植物、成虫の訪花植物について調査した。調査日時は平成１５年７月２２日～７月２５日（爺ヶ岳～赤沢岳)、７月２９日～８月１日（蓮華岳～スバリ岳・ライチョウ調査と並行調査）に実施した。

収集した資料については、現在解析中であるが、今回の調査ではミヤマモンキチョウの生息の確認はできなかったが、調査期間前および調査期間中の天候は、例年と比較し大変冷涼であり、成虫の羽化時期がずれていたことが考えられた。

大町市は本種の北アルプスにおける分布の北限地域にあたるため、平成１７年以降は調査時期を厳選し、さらに精度の高い生息調査を実施し正確な分布を把握したい（平成１６年度は実施予定なし)。

また、平成１５年１０月７日～１０月８日に北アルプスで本種の最低標高生息地である湯俣岳周辺で本種の生息状況を調べることを目的として、本種の食草であるクロマメノキの分布状況と幼虫の食痕について調査した。実際に幼虫の確認をすることは出来なかったが、局地的ではあるが、食痕の確認をすることができた。発生量については把握することができなかった。平成１６年度では、成虫の羽化時期の調査を計画している。

（９）21 世紀 COE プログラム研究協力（担当　清水）

岐阜大学では、平成１４年度より文部科学省の助成による２１世紀 COE プログラム「野生動物の生態と病変からみた環境評価」研究教育事業を実施している。この研究にかかわる研究協力者として、平成１５年よりライチョウの糞便（野生個体・飼育個体）の採取などを実施している。博物館としては、ライチョウの飼育管理についての指導などを受けることができた。

（１０）安曇地方の絶滅危惧植物の生活史と増殖法の研究（担当　千葉）

対象植物は、絶滅危惧ＩＡ類イヤリトリカブト（大町市)、ホロムイソウ（白馬村)、アズミノヘラオモダカ（三郷村、堀金村)、絶滅危惧Ⅱ類ビッチュウフウロ（白馬村)、準絶滅危惧フクジュソウ（白馬村)、ササユリ（大町市）で、生育地での観察とともに栽培個体の観察を行った。

① イヤリトリカブト

９月初旬の現地調査から、訪花昆虫の調査を行い受粉に関与するのは主にトラマルマルハナバチであることが明らかになった。博物館での栽培から発芽から開花個体に至るまでには早い個体で播種年から４年を要することが明らかになった。

② ホロムイソウ

６月上旬の現地調査からホロムイソウはここ数年、ほとんど開花していないことがわかった。原因については明らかにすることはできなかった。このため、種子採集・発芽特性についての解明は、来年度に持ち越された。

③ アズミノヘラオモダカ

これまでの観察から発芽には一定の浸水期が必要であることがわかっているが発芽率については明らかにしていなかったことから、来年度の実験用に生育地より種子を採取した。

④ フクジュソウ

実生の形態観察を継続的に行った。痩果はアリ散布であることから、生育地でどのように散布されているか実験を行った。散布に関わるアリは３種いることが確認でき、２０個の痩果が１時間も経過しないうちに運ばれたのに対して、ほとんど運ばれない場所もあった。

⑤ ササユリ

６月下旬～７月上旬にかけてササユリの訪花昆虫の採集、ビデオ撮影による観察および気

温の測定を行った。その結果、ササユリはスズメガ媒植物であることが強く示唆された。気温は開花期間中、１０℃近くを記録したが、スズメガの行動に影響を与えたとは思えなかった。

⑥ ビッチュウフウロ

７月下旬に、開花様式について観察を行い、あわせて同属のハクサンフウロおよびゲンノショウコの開花様式と比較した。結果、ビッチュウフウロおよびハクサンフウロは雄性期から雌性期になるのに対して、ゲンノショウコは雄性期・両性期・雌性期となった。しかし、ゲンノショウコの両性期の際には葯の花粉量はほとんどないようにも思え、これまでの考え方に疑問が生じた。

（１１）コマクサの生活史の研究（担当　千葉）

博物館で栽培しているコマクサを用いて開花特性、受粉、結実、散布、発芽～実生・幼植物の形態および特性について観察を行った。８月下旬に唐松岳の実生個体の成長の観察および訪花昆虫の写真撮影を行った。

①所　見

開花は花冠外輪が反り返ると同時に、葯が裂開。受粉にはマルハナバチの仲間が花粉を媒介するといわれてきたが、ほとんどの個体で自家受粉していることが考えられた。結実した種子はヘソにエライオソームがあることからアリが集まり、巣に運び込んだ。発芽は散布期には休眠状態にあり、発芽には低温にさらされることが必要で、栽培個体では８月中旬に 10 葉が展葉した個体もあった。９月になると地下茎上に１つの越冬芽が形成されていた。

一方、唐松岳では実生の葉は子葉のままか、あるいは第１葉が展葉している状態で、低地栽培の個体と比べ、高山帯では成長にかなりの時間を要することが伺える。訪花昆虫はマルハナバチのみであったが、頻繁に訪花することはなかった。

（１２）大町市の社寺林における樹木調査（担当　千葉）

大町市に点在する社寺林において最も大きい樹種の樹高・胸高直径の記録および写真撮影を行った。

①所　見

調査の結果、スギ・ヒノキといった有用樹種が多く見られたが、なかにはモミなど祭事にまつわるとおもわれる樹種もあった。さらに詳しい結果については、今後、文化財係に保管されているデータと対比した後、博物館の展示資料として反映する。

（１３）鹿島槍荒沢奥壁の冬期初登攀と東京商大（現一ツ橋大学）山岳部と小谷部全助（担当　柳澤）

①概　要

小谷部全助の姪、生田正子氏より小谷部全助の山日記と数葉の写真の寄贈を得たことを契機に、山日記における小谷部の鹿島槍荒沢奥壁の冬期初登攀に至る過程を、アプローチルートの調査と荒沢奥壁冬期登攀の経験とを合わせ、文献的検証とともに実践的に検証し、鹿島

槍荒沢奥壁の冬期初登攀の持つ意味を探った。

②内　容

ａ．鹿島槍荒沢からのアプローチルートの調査

ｂ．鹿島槍本谷及び三ノ沢への入谷、アプローチルートの調査

ｃ．遠見尾根からカクネ里のアプローチルート及び鹿島槍北壁の登攀ルートの調査

ｄ．黒沢尾根から鹿島槍荒沢及び奥壁登攀ルートの調査

ｅ．昭和初期の登攀装備、技術に関する文献調査

ｆ．小谷部全助「山日記」及び東京商大山岳部報「針葉樹」の文献調査

③調査記録　（平成１５年）

・　１月　１日　　鹿島槍東尾根
・　１月２０日　　鹿島槍東尾根
・　１月２５日　　鹿島槍東尾根
・　２月１１日　　小遠見
・　２月２４日　　黒沢尾根
・　３月１～２日　黒沢尾根
・　５月１９日　　鹿島槍荒沢調査
・　５月２４日　　鹿島槍大冷沢北俣本谷及び三ノ沢調査
・　５月２５日　　鹿島槍荒沢調査
・　６月　５日　　鹿島槍大冷沢北俣本谷及び三ノ沢調査
・　７月２１日　　鹿島槍荒沢本谷調査
・　７月２５～２６日　鹿島槍荒沢本谷調査
・　８月３～５日　カクネ里入山調査
・　８月　８日　　鹿島槍大冷沢北俣本谷及び中岩沢調査
・　８月１６日　　鹿島槍大冷沢北俣本谷調査
・１０月　５日　　鹿島槍大冷沢北俣本谷及び三ノ沢

④所　見

１６回の入山調査を行い当時のアプローチルートについて検証した。当時は厳冬期に布引沢、北俣本谷、三ノ沢、二ノ沢、荒沢、荒沢南俣、カクネ里を主として登下降している。雪崩にどう対処したか等、厳冬期の登下降について解明したい。また、無雪期の三ノ沢は極めて困難なルートになる。しかし、アプローチに使っているので詳細を明らかにしたい。

（１４）中部山岳鳩協会の資料（担当　関）

企画展示にあわせ、収蔵している中部山岳鳩協会に関する資料（約 200 点）を詳細について確認し、各資料の意味合いや相互関係について調べた。また、これまでの関係者の記述や聞き取りを整理するとともに文献などにあたり直して、中部山岳鳩協会の大町での活動の様子を探った。その結果は展示解説や三田旭夫略年譜など、展示へ反映させた。

（１５）大町周辺の山人たちの活動と近代登山黎明期への影響（担当　関）

遠山品右衛門、上條嘉門治、小林喜作ら北アルプスの山人（やまうど）について、彼らが使った道具など関係資料の所在を確認するとともに、二次資料を収集中。

（１６）県立神奈川文学館所蔵の井上靖関係資料（担当　関）

県立神奈川文学館（横浜市）所蔵の井上靖関係資料（約 100 点前後）を閲覧した。井上靖の小説「氷壁」（１９５６年１１月～５７年８月朝日新聞連載、１９５７年単行本新潮社発行）は、岩稜会パーティーによる奥穂高岳東壁でのナイロンザイル切断遭難（１９５５年１月）とその後のナイロンザイル性能をめぐる社会事件に取材したフィクションとして知られる。山岳博物館では関係資料を展示しており、その参考となる情報を得ることができた。

２．研究発表・執筆活動

（１）絶滅危惧植物関連（千葉）

４月１２日に松本市において開催された「日本産草本植物の生活史研究プロジェクト第 6 回研究発表会」でサクラソウ、フクジュソウおよびササユリの生活史について発表を行った。

１１月２３日に松本市において開催された「日本産草本植物の生活史研究プロジェクト第７回研究発表会」でコマクサの生活史について発表を行った。

これまでの研究成果を「長野県準絶滅危惧ササユリの生活史と訪花昆虫」と題して、研究指導者である清水建美氏（信州大学名誉教授・金沢大学名誉教授）と連名で、長野県植物研究会誌に投稿、受理された。

（２）執筆活動

館の調査研究・普及事業にかかわる執筆実績について列記する。

①柳　澤

・北アルプス登山がからだに与える影響②

　市立大町山岳博物館　『山と博物館』第 48 巻第 5 号　平成 15 年 5 月 25 日

・黒部丸山東壁と雪崩

　市立大町山岳博物館　『山と博物館』第 49 巻第 1 号　平成 16 年 1 月 25 日

②宮　野

・「山博おもしろミニゼミ」のひとつを担当して

　市立大町山岳博物館　『山と博物館』第 49 巻第 2 号　平成 16 年 2 月 25 日

③岑　村

・初めて見る爺ヶ岳石室の写真

　市立大町山岳博物館　『山と博物館』第 48 巻第 10 号　平成 15 年 10 月 25 日

・歌に読む百瀬慎太郎の心情（前）

　市立大町山岳博物館　『山と博物館』第 49 巻第 2 号　平成 16 年 2 月 25 日

・歌に読む百瀬慎太郎の心情（後）

　市立大町山岳博物館　『山と博物館』第 49 巻第 3 号　平成 16 年 3 月 25 日

④清　水

・そよ風の精

市立大町山岳博物館　『山と博物館』第 48 巻第 7 号　平成 15 年 7 月 25 日

・親子探鳥会「ようこそ水鳥」

市立大町山岳博物館　『山と博物館』第 49 巻第 3 号　平成 16 年 3 月 25 日

⑤千　葉

・コマクサの生活史

市立大町山岳博物館　『山と博物館』第 48 巻第 9 号　平成 15 年 9 月 25 日

・ササユリはスズメガ媒植物!?

市立大町山岳博物館　『山と博物館』第 49 巻第 1 号　平成 16 年 1 月 25 日

⑥　関

・蓮華岳の「貴重な薬草」とは

市立大町山岳博物館　『山と博物館』第 48 巻第 11 号　平成 15 年 11 月 25 日

・大町登山案内者組合のはじまり（前）

市立大町山岳博物館　『山と博物館』第 49 巻第 3 号　平成 16 年 3 月 25 日

Ⅲ　資料収集保管事業（担当　千葉・関）

１．新収蔵資料

平成１５年４月１日から平成１６年２月２９日までに、寄託・寄贈（寄付）によって次の資料を収集した。（敬称略）

受入日	資　料　名	数量	入手先	住所	備　考
4／18	書　籍	12 点	横山駒子	横浜市	図書資料
6／21	書　籍	1 点	渡邊トシ子	大町市	図書資料
	書　籍	1 点	菅原悦子	池田町	図書資料
9／13	キノコのスライド原版	73 点	成川　実	大町市	写真資料
10／8	書　籍	25 点	北沢勝二	大町市	図書資料
9／25	書　籍	2 点	増田欣子	千葉県	図書資料
11／18	足立源一郎使用の尻皮	1 点	足立　朗	神奈川県	山岳資料
12／22	1 階展示ｹｰｽ　3 階ﾘﾆｭｰｱﾙ	1 式	八王子岳友会	八王子市	展示設備等
1／11	山岳書籍等	118 点	関根武夫	埼玉県	図書資料含
1／29	植物写真	8 枚	長沢修介	大町市	ﾔﾄﾞﾘｷﾞ
	植物写真（ﾎﾟｼﾞﾌｨﾙﾑ）	515 点			職員による撮影
2／29	高周波復刻ピッケル 山内ピッケル 896 番	2 点	橋本龍太郎	千代田区	山岳資料

２．資料貸し出し等

年月日	内容（場所等）	主　催	備　考
6/9～8/15	飯嶋家文書特別展（市内）	大町市文化財センター	飯嶋善士氏寄託資料出展
6/15～9/30	井上靖展（横浜市）	県立神奈川近代文学館	切れたﾅｲﾛﾝｻﾞｲﾙなど出展
9/24～10/24	移り変わる時代のきもの展（市内）	大町市文化財センター	民俗資料を出展
11/2～12/6		六甲高山植物園	北アルプスに生息する生物の写真を出典

ここにあげた以外にも、収蔵資料などに関する貸し出しや照会が多数あった。

３．資料の保管整理

平成１５月８月～平成１６年３月の期間、２名の臨時職員による図書資料（約 3,000 冊）

の大町市立図書館のシステム（ＴＲＣＤ）への登録と研究報告書などを独自に登録した。

平成１５年１１月～平成１６年３月の期間、２～４名の臨時職員による山岳資料（約 3,550 点）の写真撮影と整理作業を実施。随時、学芸員による資料整理・登録を実施。

（１）人文系の資料

①収蔵資料の点数

山岳資料 3,410 点、寄託資料 401 点（一般 239 点、JAC162 点）、美術資料 189 点、民俗資料 977 点、歴史資料 49 点、考古資料 158 点。

※この点数は通番および整理番号の総計であり、実際の個別の点数はこれより大幅に増える。これは、同様の資料や関連する資料を一括してひとつの番号を取得している場合があるためである。

②現　状

山岳資料点にを含めた 3,649 点について、ほぼ全ての資料撮影を完了した。撮影した写真はプリントの状態で、資料番号ごとファイルに綴って保管した。

業務開始時点では、既登録の山岳資料は 2,010 点、であった。期間中、それらのうち、JAC 寄託資料を除いた（ただし、展示中の資料はほぼ全て撮影）ほぼ全ての資料撮影を行った。一方、写真撮影と同時に進めた学芸員による資料整理・登録作業によって、山岳資料 1,400 点が新規登録された。これらについても、期間中に全ての資料撮影を行った。

また、写真撮影を進める中で、資料カードと実物資料の照合を行い、所在の確認と計測などの記録を資料カードに追記するという棚卸を実施した。さらに、収蔵資料のクリーニングと１階倉庫内の清掃・整理を行い、以前に比べて資料保存環境が若干改善された。

③今後の作業と課題

資料撮影の段階として、資料カードに記録された情報と撮影した写真の画像をデジタル化してデータベースを構築したい。このデータベース作成の方法としては、一括して外部業者へ委託する方法と、一部の作業（写真のデジタル化のみなど）に限って外部業者に委託し市販のデータベース・ソフト（アクセスなど）を使って博物館職員が入力・編集作業を行う方法と、全作業を博物館の機材（PC、スキャナー）を使って行う方法の 3 種類が考えられる。データベースが構築することで外部からの照会などに、より迅速に対応でき、将来的には印刷物や HP で情報公開し、当館収蔵資料を多方面の調査研究や教育普及に一層広く活用してもらえるようにしたい。

（２）自然系の資料

①収蔵資料の点数

菌類（液浸標本）129 点、蘚苔類（乾燥標本）674 点、維管束植物（液侵標本）7 点・（さく葉標本）約 6,000 点、魚類（液浸標本）62 点、両生爬虫類（液浸標本）68 点、貝・甲殻類（液浸標本）13 点、哺乳類（剥製標本）229 点、鳥類（剥製標本）634 点、昆虫（標本ドイツ箱）164 点・（未標本作製資料）約 1,000 点・（液浸標本）27 点、地質約 1,600 点、その他液浸標本（調査研究資料）103 点

②現　状

これまでに保管されている維管束植物（さく葉標本）については、受入れ台帳などが一切な

いことから、現在のところどれくらいの標本が収蔵されているかは正確な数は不明である。今後は採集年月日、産地名、採集者などを明らかにして、同定し直した後、データベース化を図ることが必要である。また、長期間にわたり温湿度管理のできない場所で保管されてきたことから、標本の消耗・劣化が激しく、それらについては検討し、何らかの対応しなければならない。

③今後の作業と課題

動物・植物標本庫については、昆虫等の侵入を防げる室内の確保、適正な温湿度管理が最重要課題である。

（３）図書資料

①収蔵資料の点数

1,335 冊

②現　状

これまでに所蔵したいた書籍のほとんどをデータベース化することができた。

③今後の作業と課題

データベース化ができなかった書籍について、分類する必要が生じた。データベース化できた書籍については、博物館の特性上、資料のひとつとして扱わなくてはならないが、地方研究者等には利用してもらうように整理を進めていくことが望まれる。

今後、資料が増えるなかで、収蔵場所の確保が必要になると思われる。

Ⅳ　動物飼育・傷病鳥獣保護事業（担当　清水）

１．動物飼育

① 飼育動物（平成１６年３月３１日現在）

種　　名	雄	雌	計	種　　名	雄	雌	不明	計
ニホンカモシカ	5	2	7	ヤマドリ＊	1			1
ホンドザル		1	1	トビ＊			7	7
ホンドキツネ		1	1	フクロウ＊			1	1
ホンドタヌキ		1	1	ｵｵｺﾉﾊｽﾞｸ＊			1	1
ｱﾙﾌﾟｽﾏｰﾓｯﾄ	1		1	キジバト			1	1
ｼﾍﾞﾘｱｵｵﾔﾏﾈｺ	1		1					
計	7	5	12	計	1		10	11

哺乳類６種　鳥類５種　　合計１１種　２３個体　　＊は長期保護動物を含む

２．主な動物の増減

（１）繁殖個体

ａ．ニホンカモシカ

・平成１５年４月３０日　マヤ（メス）とシロ（オス）の間に１個体（メス）の出産を確認したが、死産であった。

・平成１５年５月１４日　ミネコ（メス）とクロ（オス）の間に１個体（オス）の出産があった。親が高齢であり乳成分の低下があると予想されることと、親からの細菌感染を防ぐためにすぐに親と隔離し人工哺育を行い現在に至る。名前は公募し平成１５年１２月１１日に「岳・がく」に決定した。

（２）死亡個体

ａ．ニホンカモシカ（メス）平成１５年４月３０日死亡。死因：不明（死産）。同日繁殖確認個体。

ｂ．ホンドタヌキ（オス）平成１５年１２月２６日死亡。死因：長野県松本家畜保健衛生所で解剖検査中。平成５年９月２１日保護個体。

ｃ．シベリアオオヤマネコ（メス）平成１５年４月１７日死亡。死因：フィラリア症の疑いあり（長野県松本家畜保健衛生所にて検査）　平成３年１０月３０日オーストリア・アルペン動物園より寄贈個体。

ｄ．ライチョウ（オス）平成１５年１１月１３日死亡。死因：シュウ酸塩中毒・塵肺症（岐阜大学にて解剖検査）　平成１０年７月９日繁殖個体。

ｅ．ライチョウ（オス）平成１５年７月３日死亡。死因：シュウ酸塩腎症・石灰症（長野県松本家畜保健衛生所にて検査）　平成５年７月１４日蓮華岳より採卵個体。

ｆ．ライチョウ（オス）平成１６年２月１７日死亡。死因：糸球体の石灰化・シュウ酸沈着症・多発性微小心筋壊死・微小心筋繊維症（岐阜大学農学部獣医学科にて検査）

平成１０年７月１１日繁殖個体。

（３）移動個体

・ニホンカモシカ（メス）平成１４年５月１４日繁殖　愛称：さくら　平成１５年９月２９日　ブリーディングローンとして、富山市ファミリーパークへ転出。

（４）今後の計画

ニホンカモシカについては、現在飼育している個体の高齢化、野外個体の導入の難しさ、飼育場の問題などから、毎年の出産の見込みは難しい。今後繁殖したニホンカモシカについては友好提携を結んでいるアルペン動物園との交換動物をふまえて、国内動物園に繁殖を目的とした無償貸付（ブリーディングローン）を行い、輸出可能な若い個体の確保を計画している。現在、石川県森林公園と五十鈴（オス）平成１３年５月１４日繁殖をブリーディングローンで調整中。

３．保護動物

長野県動物園連絡会に加入しており、長野県における傷病鳥獣救護施設の一つとして保護動物を受け入れている。

（１）収容個体数

哺乳類　４種６個体

（ニホンカモシカ３・ニホンジカ１・キツネ１・アブラコウモリ１）

鳥類　１２種１９個体

（フクロウ１・オオコノハズク１・チョウゲンボウ１・トビ６・ツバメ３・イワツバメ１・トラツグミ１・ハクセキレイ１・キジバト１・トバト１・キジ１・ヤマドリ１）

計 25 個体（そのうち死亡１１個体　放鳥獣６個体　現在飼育中８個体）

平成１５年４月１日から平成１６年３月３１日までに保護収容した個体数であるが、前年度からの継続依頼１０個体を含む。

（２）所　見

死亡個体のほとんどは、収容時には処置しても手遅れまたは、重症の個体であり保護収容当日か翌日に死亡している。この傾向は過去の実績からも大型哺乳類に顕著で、獣医師の処置が不可欠であることが多い。また、半年以上収容した個体は野外に復帰できず、長期収容となる傾向がみられる。

４．ライチョウ保護事業委託事業（担当　清水）

環境省自然環境局より次とおり業務を受託した。

（１）事業名

平成１５年度ライチョウ生息地航空写真解析（後立山連峰南部）及び飼育に関する検討調査委託業務

（２）事業の目的

本事業は、絶滅危惧Ⅱ類・特別天然記念物に指定されているニホンライチョウ保護事業の今後の事業展開のあり方を検討する為の､資料収集および資料整理を行うことを目的とする。

（３）実施期間

平成１６年２月１６日から平成１６年３月３１日

（４）事業内容

①ライチョウの生息環境に関する資料の整理

長年ライチョウ生息状況調査が行われてきている、北アルプス爺ヶ岳周辺の航空写真を基に、生息環境・営巣環境の解析資料として供することを可能にするために、写真のデジタルモザイク作成化を行う。

今後、この資料を野外調査より得られた資料と併せて解析することにより、本種の現在の生息環境および営巣環境を把握することができるとともに、将来の生息状況・生息および営巣可能である環境を推測し保全対策を実施する資料に供することが可能となるものと考えられる。

②今後のライチョウの飼育事業の展開を考える為の資料収集

現在、ニホンライチョウは、長野県大町市にある市立大町山岳博物館が唯一の飼育施設である。さらに低地飼育下におけるライチョウの病理・生理学的研究の必要性が求められている。今後のライチョウ保護事業、特に飼育事業の展開を考えていく上で、海外のライチョウ近似種の飼育施設（飼育研究先進地であるノルウェー・トロムセ大学およびライチョウに関する多くの資料を集積されているオスロ大学）を視察し、飼育設備について、飼育方法についてなどの資料を収集し、我が国における本種の飼育事業を通しての基礎的資料集積のための調査研究方針を設定する検討を行うための基礎資料とする。

Ⅴ　教育普及事業

１．主催事業

（１）山博おもしろミニゼミ

①実績一覧　　＊　は詳細を別記

月	日	曜	内　　容	大人	子供	計
4	5	土	北アルプスの山小屋にて（関）	4	0	4
	6	日	春の湿地（千葉）	4	0	4
	12	土	春の里山（清水）	2	0	2
	13	日	後立山連峰案内（岑村）	23	0	23
	20	日	志水哲也トークショー（岑村）	65	0	65
	26	土	山野草を楽しもう（千葉）　＊	2	0	2
	27	日	春の写生大会（千葉）　＊	0	91	91
	29	火	安曇野の雪形（関）	29	3	32
5	4	日	山の名前を覚えよう（岑村）	67	15	82
	5	月	ギフチョウとヒメギフチョウ（清水）	19	2	21
	10	土	大町の山とまちを見てみよう（関）	6	0	6
	11	日	春の写生大会（宮野）	0	30	30
			小鳥の声を聞く会（清水）　＊	30	9	39
	17	土	雪形フォーラム（関・岑村）	50	0	50
	24	土	カモシカの食べ残した枝はギザギザ（宮野）	10	4	14
	25	日	セッケイムシとは？（清水）	13	0	13
	31	土	あしたは針ノ木・慎太郎祭（岑村）	12	0	12
6	1	日	カモシカの糞はツブツブ（宮野）	22	0	22
	7	土	山野草を楽しもう（千葉）　＊	7	0	7
	8	日	槍ケ岳開山・開拓記（関）	3	0	3
	14	土	山岳写真家の系譜（宮野）	0	0	0
	15	日	カモシカの爪はいくつあるのかな？（宮野）	12	0	12
	21	土	ロープ結び（柳澤）	29	0	29
	22	日	教科書に登場した北アルプス（関）	22	2	24
	28	土	ササユリの話 2003（千葉）	15	0	15
	29	日	日本最小のトンボ「ハッチョウトンボ」（清水）	21	4	25
7	5	土	鹿島槍登山（柳澤）	32	0	32
	6	日	カモシカのミルク（宮野）	3	5	8
	12	土	山岳画ギャラリートークⅠ（関）	20	0	20
	13	日	山岳画家・山川勇一郎の人と作品（岑村）	14	0	14
	19	土	山岳画ギャラリートークⅡ若林晴男（宮野）	26	1	27
	20	日	大町市に生息する高山蝶（清水）	21	2	23

	21	月	コマクサの生活史と花の構造（千葉）	53	1	54
	26	土	山岳画ギャラリートークⅢ平沢利夫（関）	23	0	23
			カモシカの休日～カモシカになってみよう～（宮野）＊	3	13	16
	27	日	夏の大町・観天望気（岑村）	52	2	54
8	2	土	山岳画ギャラリートークⅣ牧潤一（柳澤）	19	0	19
	3	日	カブトムシの不思議（清水）	46	16	62
	9	土	山岳画ギャラリートークⅤ上田太郎（千葉）	25	0	25
	10	日	岩壁で使う用具（柳澤）	76	10	86
	16	土	山岳画ギャラリートークⅥ中村勝久（岑村）	33	0	33
			鹿島槍本谷で遊ぼう（柳澤）　＊	10	7	17
	17	日	長野県絶滅危惧ＩＢ類ビッチュウフウロ（千葉）	54	21	75
	23	土	山岳画ギャラリートークⅦ後藤三男（岑村）	15	0	15
	24	日	カモシカの歯（宮野）	25	9	34
	30	土	ポカラの国際山岳博物館学芸員のはなし（関）	26	2	28
	31	日	ザックの今むかし（岑村）	65	0	65
9	6	土	高山植物－花の中へご招待－（千葉）	18	0	18
	7	日	明治・大正の露営方法（関）	14	1	15
	13	土	クロツバメシジミの生活（清水）	16	0	16
	14	日	カクネ里へ行って来た（柳澤）	58	0	58
	15	月	カモシカの毛はふさふさ？ごわごわ？（宮野）	31	5	36
	20	土	日本の近代登山と外国人（関）	14	0	14
	21	日	トリカブトとマルハナバチの関係（千葉）	53	0	53
	23	月	雨具の今むかし（岑村）	3	0	3
	27	土	ナイロンザイル事件（柳澤）	9	0	9
	28	日	キノコ学習会（千葉）　＊	22	3	25
10	4	土	カモシカの声（宮野）	33	2	35
	5	日	アリとコオロギ（清水）	25	4	29
	11	土	続・コマクサのお話－2003 年の観察からわかったこと－（千葉）	27	0	27
	12	日	伝書鳩を使った山岳通信－中部山岳鳩協会の資料の紹介（関）	29	0	29
	13	月	鉄砲水（柳澤）	90	0	90
	18	土	登山靴の今むかし（岑村）	5	0	5
	19	日	今年うまれたカモシカの子どもを見学しよう（宮野）	43	9	52
	25	土	秋の鳴く虫（清水）	8	0	8

	26	日	ビッチュウフウロ、ハクサンフウロ、ゲンノショウコの開花特性-2003 年の観察からわかったこと（千葉）	18	0	18
11	1	土	雷（柳澤）	25	0	25
	2	日	山の名前を覚えよう（岑村）	38	0	38
	3	月	飼育カモシカの食事（宮野）	17	3	20
	8	土	昆虫の冬越し準備（清水）	9	0	9
	9	日	自分の山を作ろう！山岳陶芸にチャレンジ その1（関）　＊	6	9	15
	15	土	カモシカの冬じたく（宮野）	26	0	26
	16	日	北アルプスの生いたちを考える（岑村）	31	0	31
	23	日	種子散布のあれこれ（千葉）	8	0	8
	24	月	道に迷った話（リングワンデリング）（柳澤）	24	0	24
	30	日	蛹（さなぎ）のいろいろ（清水）	17	0	17
12	7	日	自分の山を作ろう！山岳陶芸にチャレンジ その2（関）　＊	5	8	13
	14	日	雪崩（柳澤）	23	1	24
	21	日	種子散布のあれこれパート 2（千葉）	0	0	0
	28	日	北安曇地方の冬の民具（岑村）	7	0	7
1	4	日	昆虫の冬越し－凍らないナゾ－（清水）	15	28	43
	10	土	緊急出動！カモシカ調査隊～真冬のカモシカを追え～（宮野）　＊	7	13	20
	18	日	登山道具－名前のいろいろ－（関）	5	2	7
	25	日	親子探鳥会「ようこそ冬鳥」－どこから来てどこへ行くの？－（清水）　＊	7	16	23
2	1	日	スキーの今むかし（岑村）	11	0	11
	8	日	フキノトウのオスとメス（千葉）	6	0	6
	14	土	親子探鳥会「ようこそ冬鳥」－渡り鳥の本能の不思議－（清水）　＊	16	12	28
	22	日	大町の郷土食（関）	17	0	17
	29	日	エベレスト（チョモランマ、サガルマタ）登頂（柳澤）	30	0	30
3	7	日	フクジュソウのおはなし（千葉）	5	0	5
	21	日	雪の立山・針ノ木越え（岑村）	11	0	11
	28	日	大町の山人－遠山品右衛門－（関）	13	8	21
参加者合計				2,003	373	2,376

②概要および所見

本年度は財団法人自治総合センターの宝くじ普及広報事業の一環としてのコミュニティ助成事業（青少年健全育成助成事業）の助成金を得て、野外学習活動も多く取り入れ好評だった。

（２）春の動物写生大会（担当　関）

①開催日：平成１５年４月２０日（土）・２７日（土）・５月１１日（土）

②場　所：山岳博物館付属園

③講　師：荒井泰三（写生指導）、（協力：博物館友の会）

④参加者数：173 名（参加作品 170 点･･･市外・未就学児童 18 点、園児 18 点、小学生 118 点、中学生 16 点）

⑤関係行事：

ａ．写生画審査会　５月１３日（火）　山岳博物館　講堂

ｂ．動物写生画展　７月１３日（土）～２７日（日）　山岳博物館　講堂

ｃ．動物写生画表彰式　７月２７日（日）　山岳博物館　ホール

⑦ 概　要：

市内の幼稚園・保育園の園児、小・中学校の児童・生徒を対象にした付属園の動物や園内風景を画題とする写生大会であり、動物に親しみながら写生を楽しむ機会を提供し、毎年好評である。今後は開催日数を増やすなどして、より多くの児童・生徒の方々に参加できるようにしたい。

（３）山野草を楽しもう！（担当　千葉）

①開催日：平成１５年４月２６日（土）・６月７日（土）

②場　所：山岳博物館　講堂

③講　師：栗林　修（(有）北アルプス植物園）

④参加者数：９名

⑤概　要：

山野草の寄せ植えの作り方を通して、‘愛でる’ということの大切さ、喜びを持ってもらうことを目的に開催した。

（４）小鳥の声を聞く会（担当　清水）

平成１５年度コミュニティ助成事業（青少年健全育成助成事業）

①開催日：平成１５年５月１２日（日）

②場　所：山岳博物館から鷹狩山山頂

③講　師：腰原正己・鳥羽悦男・長澤修介（協力：博物館友の会）

④参加者数：一般１８名　友の会会員２１名　計３９名

⑤概　要：

野鳥を中心とした自然観察会を山岳博物館友の会の協力を得て実施した。観察した鳥類は４０種（オオルリ・サンショウクイ・トラツグミ・ヨタカなど）。

この観察会は、今回で２３回を数え鷹狩山での調査記録を蓄積した。このように同じ場所での調査を継続することにより、野鳥の生息動向などを知る重要な資料であり、事業の継続調査を望む。

（５）カモシカの生活を題材にした学習（担当　宮野）

①開催日：平成１５年７月２６日（土）・平成１６年１月１０日（土）
②場　所：エネルギー博物館から渋沢
③協　力：東京コミュニケーションアート専門学校
④参加者数：夏季１６名(子供 13 名、大人 3 名)、冬季２０名(子供 13 名、大人 7 名)
⑤概　要：

夏季はカモシカへの疑似体験、冬季は調査員への疑似体験を設定したプログラムを企画した。現地で調査した資料を基礎としてニホンカモシカの生態をわかりやすくするため紙芝居やかるたなどに展開し楽しく解説した。また、山林にも足を踏み入れ個体や食痕、糞、足跡などの観察を行った。環境教育プログラム作成とその実施を目的としている学校の方針と、博物館の教育普及活動が融合した新しい形式の事業であった。

（６）鹿島槍本谷で遊ぼう（担当　柳澤）

平成１５年度コミュニティ助成事業（青少年健全育成助成事業）

①開催日：平成１５年８月１６日（土）
②場　所：鹿島槍大冷沢北俣本谷
③講　師：降旗厚・松原繁・狩野真里・柳澤史夫・田原正子
④参加者数：１７名（子供 7 名、大人 10 名）
⑤概　要：

鹿島槍ケ岳登山口大谷原から入山。西俣出合から登山道を離れ、大冷沢北俣本谷を三ツ沢出合上部まで登る。初めてみる大岩壁にかこまれた氷河のような谷。ロープを使って懸垂下降をしたり、伏流水の音を聞いたり焚火でソーセージを焼いたり、初めて体験することが一杯だったようである。その感動を子供たちの感性で写真に記録した。

（７）キノコ学習会（担当　千葉）

平成１５年度コミュニティ助成事業（青少年健全育成助成事業）

①開催日：平成１５年９月２８日（日）
②場　所：山岳博物館から鷹狩山周辺
③講　師：太田勇・飯島八郎・高野哲哉・清沢由之
④参加者数：３１名
⑤概　要：

キノコ等を通して自然の仕組みと付き合い方を考えることを目的として実施した。野外で指導やテキスト配布は効果的であり、キノコを通して自然の仕組みや付き合い方を理解してもらえたと思う。今後はさらに理解を深めてもらうために展示も必要でると思われる。

（８）自分の山を作ろう！　山岳陶芸にチャレンジ（担当　関）

平成１５年度コミュニティ助成事業（青少年健全育成助成事業）

①開催日：平成１５年１１月９日（日）・１２月７日（日）　全２回

②場　所：山岳博物館　講堂

③講　師：高田尚紀（山岳陶芸家、茅野市在住）

④参加者数：第１回１５名(子供６名･大人９名)、第２回１３名(子供８名･大人５名)

⑤概　要：

山岳陶芸家・高田尚紀氏を講師に招いての山岳陶芸教室を山博おもしろミニゼミとして開催した。大町山岳博物館から見える北アルプスなど自分の好きな山をひとつ選び、その山を実際に見て観察したり、写真集などの本で調べたりしながら山岳陶芸作品を制作した。

（９）親子探鳥会　ようこそ冬鳥－どこから来てどこへ行くの？－　（担当　清水）

平成１５年度コミュニティ助成事業（青少年健全育成助成事業）

①開催日：平成１６年１月２５日（日）

②場　所：木崎湖周辺

③講　師：腰原正己・鳥羽悦男・長澤修介

④参加者数：子供１６名　大人７名　計２３名

⑤概　要：

水鳥ではヨシガモ・ヒドリガモなど９種、小鳥ではジョウビタキ・アトリ・マヒワなど 17 種を確認した。冬季の探鳥会は近年実施していなかったが、他の時期には見ることのできない鳥、犀川などでは見ることのできない鳥を観察することができた。また、雪の上に落ちている植物、動物の足跡などを探したり、特に小さな子供たちは雪の中に飛び込んだりと、とても活発に楽しみながら自然と親しみ動植物に対する関心を深めたと思われる。

（１０）親子探鳥会　ようこそ冬鳥－渡り鳥の本能のふしぎ－　（担当　清水）

平成１５年度コミュニティ助成事業（青少年健全育成助成事業）

①開催日：平成１６年２月１４日（土）

②場　所：豊科町犀川光ダム湖周辺

③講　師：西澤幹夫・清沢由之

④参加者数：子供１２名　大人１６名　計２８名

⑤概　要：

前回の木崎湖での探鳥会で観察できた野鳥とは異なる種を多く観察できた。光ダム湖は人により餌付けされている場所であり、ここで多く見ることの出来る種は木崎湖ではほとんど観察することができず、逆に木崎湖に多く見られる種は、犀川ではほとんど見ることが出来ない。種により人との関係を含め異なった環境を好むことを学ぶことができた。また、犀川では非常に近距離で水鳥の観察をすることが可能であり、これは特に年少の子供たちが楽しめたことと思われた。

コハクチョウ・カワウ・オナガガモ・カナダヅルなど１８種を確認した。

水鳥の北への渡りの時期が近づき同種ごとの集団化が始まっていた。野鳥観察のほか、広く自然についてを学び興味を持ってもらうことを目的とし､周囲の林で冬の植物の過ごし方、冬芽、昆虫の越冬などについての話のほか、実際に触ってみたり、考えてみたりする観察会を実施し、自然に親しんだ。

２．各種実習への対応

（１）対応一覧

月　日	内　　容	実　　習　　者	備　考・担当
5／11～25	職業体験学習 動物飼育	安曇養護学校 1、2 年生 各 1 名	飯島、菅沼、倉間
7／15～17	職業体験学習 動物飼育	松本市立開成中学 3 年生 1 名	飯島、菅沼、倉間
7／23～24	職業体験学習 動物飼育	大町第一中学校 3 年生 3 名	飯島、菅沼、倉間
8／18～9／5	学芸員実習	ポカラ国際山岳博物館 ナビン・ギミレ	ＪＩＣＡ委託 全員
9／1	学芸員実習	立教大学学芸員課程 40 名	見学のみ　　宮野
9／4	職業体験学習 動物飼育	大町仁科台中学校 2 学年 3 名	菅沼、倉間
9／16～22	学芸員実習	信州大学理学部 3 年生 1 名	全員
11／5～26	職業体験学習 動物飼育	安曇養護学校 1 年生 1 名	飯島、菅沼、倉間
11／11～12	職業体験学習 動物飼育	大町第一中学校 2 年生 3 名	飯島、菅沼、倉間

（２）概要および所見

①職業体験学習

動物飼育担当職員の指導で､餌の調理･給餌･清掃など一連の作業を体験していただいた。本年度は市外の学習者や、２～３週間にわたる中期実習もあった。

②学芸員実習

ＪＩＣＡ（国際協力事業団）の要請を受け、初めて海外の実習者を３週間以上にわたって受入れ、総合的なカリキュラムを組み全職員で対応した。自らの博物館学と山岳博物の意義を問い直す機会となるとともに、国際交流の一助となった。

３．各種学習会等への館内対応

（１）対応一覧

月　日	内容（場所等）	主　　催	担　当
5／2	施設研修	大町市観光ボランティア	柳澤
5／22	登山事前学習	大町第一中学校２年生	岑村
5／23	登山事前学習	仁科台中学校２年生	千葉、関
6／4	総合学習	白馬高校１年生	柳澤、岑村、関
6／7	施設見学	平地区子ども会育成協議会	岑村
6／18	総合学習	白馬高校１年生	柳澤、岑村、関
6／24	地域研修	大北地区 10 年経験者（教員） 研修推進委員会	柳澤、岑村、関
7／10	登山事前学習	大町高校	清水、関
7／11	総合学習	仁科台中学校１年生	清水、千葉
8／7	総合学習	西尾市立西尾中学校２年生	飯島、菅沼
9／3	総合学習	白馬高校１年生	柳澤、岑村、関
9／26	地質見学	松本市立中山小学校６年生	岑村
10／17	施設見学	穂高町観光ボランティア	柳澤、清水
10／29	施設見学・講義	筑波大学人文地理学教室	柳澤
10／30	社会科見学	大町南小学校３年生	岑村
11／21	職業研究	大町北高等学校１年生	柳澤、清水、千葉

（２）所　見

各方面からの依頼に対して、できるだけ要望に沿う形で対応した。
ただ、昨今学習の要求は、せまい分野での専門性を求める場合が増えてきた感がある。学芸員の専門外のこうしたケースの場合は、他研究者や施設を紹介し対応した。

４．ボランティア活動（担当　宮野）

（１）友の会との連携

月　日	内　　容	人員
4／27・5／11	春の写生大会サポート	２名
5／11	小鳥の声を聞く会サポート	
9／28	キノコ学習会	

（２）その他

月　日	内　　容	団　体　名	人　員
5／18	博物館周辺、付属園内清掃活動	天理教信濃北安分教会	120 名
7／22	博物館周辺清掃活動	有明高原寮	40 名

５．テレビ・ラジオ・新聞等への出演・協力・執筆

（１）新聞連載　大糸タイムス「山博ゼミ」

①実績一覧：

発行月日	回	執筆者	題　　名
4 月 6 日	5	千葉	長野県準絶滅危惧種･福寿草
12 日	6	関	昔の山小屋に泊まる
19 日	7	岑村	私の雪形を見つけましょう！
26 日	8	宮野	ライチョウの羽
5 月 3 日	9	関	山の伝説「泉小太郎」
10 日	10	千葉	長野県絶滅危惧Ⅱ類　サクラソウ
17 日	11	岑村	木地屋敷の森
24 日	12	岑村	慎太郎祭味わい小事典
31 日	13	清水	セッケイカワゲラ
6 月 7 日	14	関	山の神は海の幸が好き？
14 日	15	千葉	長野県準絶滅危惧種　ササユリ
21 日	16	関	山の伝説②「ダイダラボッチ」
28 日	17	清水	アワフキムシ
7 月 5 日	18	関	槍ヶ岳開拓　穂苅三寿雄の活動
12 日	19	岑村	山の恩人･丸山彰先生
19 日	20	千葉	長野県絶滅危惧Ⅰ　B類　ビッチュウフウロ
26 日	21	清水	ハンミョウ
8 月 2 日	22	岑村	大町が誇る歴史的山道具
10 日	23	清水	高山蝶
16 日	24	清水	蝶の体温調節
23 日	25	千葉	長野県絶滅危惧Ⅰ　A類　アズミノヘラオモダカ
30 日	26	関	山岳画家　茨木猪之吉
9 月 6 日	27	清水	チョウのナワバリ
13 日	28	岑村	キノコ雑記
20 日	29	千葉	長野県絶滅危惧Ⅰ　A類　イヤリトリカブト
27 日	30	岑村	高瀬川の初期電源開発
10 月 4 日	31	清水	アリとコオロギ
11 日	32	関	中部山岳鳩協会
18 日	33	千葉	長野県絶滅危惧Ⅱ類　アズミイヌノヒゲ
25 日	34	関	明治･大正期の露営方法
11 月 1 日	35	岑村	初めて見る爺ヶ岳石室の写真
8 日	36	清水	種を運んだのはだ一れ？

15 日	37	千葉	長野県絶滅危惧Ⅱ類　ハナノキ
22 日	38	関	山の伝説③「山姥」
29 日	39	岑村	針ノ木峠をめぐる地名あれこれ（前）
12 月 6 日	40	岑村	針ノ木峠をめぐる地名あれこれ（後）
13 日	41	関	日本の近代登山と外国人（前）
20 日	42	関	日本の近代登山と外国人（後）
27 日	43	千葉	長野県絶滅危惧Ⅰ　A類　ホロムイソウ
平成 16 年			
1 月 10 日	44	関	籠川谷の雪崩遭難
17 日	45	岑村	地吹雪余話
24 日	46	関	風雪のビヴァーク
31 日	47	千葉	高山植物の女王　コマクサ（前）
2 月 7 日	48	千葉	高山植物の女王　コマクサ（後）
14 日	49	清水	雪の上のエビフライ
21 日	50	岑村	八方尾根の父・福岡孝行先生
28 日	51	岑村	雪嶺秘話
3 月 6 日	52	関	登山道具　―名前のいろいろ―
20 日	53	岑村	山の言葉小辞典

②所　見：

分担執筆して、平成１５年３月１日から毎週土曜日に掲載中である。平成１６年２月末まで毎週掲載し、３月以降大町市文化財センターの枠も加え、交互連載を続けている。

大町周辺の自然と歴史について、紙面を借りて多くの方に紹介する意義は小さくないと思われる。

（２）その他

①６月１７日（木）　ＮＨＫ、ＳＢＣほかカモシカ仔取材（担当　菅沼・倉間）

②６月１８日（水）　ＴＢＳ「世界ふしぎ発見」取材（8／16 放送）（担当　岑村・関）

ＡＢＮ［ＡＢＮステーション］生放送（担当　飯島・倉間）

③６月２１日（土）　テレビ東京「いい旅夢気分」取材　長山藍子来館（担当　柳澤）

④７月２９日～８月１日　ＮＨＫ「小さな旅」

針ノ木・蓮華岳にて取材協力（担当　清水・関）

６．ホームページ（担当　千葉）

ほぼ毎日、学芸員情報・イベント・「山と博物館」などを更新。１日あたり２０～３０件のアクセスがあり、概ね好評であると捉えることができる。

http://www2.city.omachi.nagano.jp/sanpaku/

７・出版物一覧

以下、大町山岳博物館編

書　　名	発行先	発行年	備　考
山と博物館	大町山岳博物館	毎月 25 日	年間購読､館内販売
展示情報シート	大町山岳博物館		館内にて販売中
総合案内	大町山岳博物館	1993 年	〃
カモシカ　氷河期を生えた動物	信濃毎日新聞社	1991 年	書店にて販売中
ライチョウ　生活と飼育への挑戦	信濃毎日新聞社	1992 年	〃
新･北アルプス博物誌	信濃毎日新聞社	2001 年	〃
ブルーガイド旅読本 上高地 安曇野 輝ける大地の自然と人	実業之日本社	2002 年	〃

８．館外の活動への参加・協力

（１）館外の活動への参加・協力

①参加・協力一覧

月　日	内　容　（場所等）	主　　催	担　当
4／13	ライチョウ保護に関する現地調査（室堂）	長野県環境自然保護課	宮野
	植物解説（居谷里湿原）	文化財センター	千葉
5／11	こども雪形見っけ隊 （白馬村ほか）	雪形まつり実行委員会	岑村
5／17	北アルプス雪形フォーラム(山博講堂)	雪形まつり実行委員会	関、岑村
5／18	雪形まつり（文化会館）	雪形まつり実行委員会	関
5／18	雪形ｳｫｯﾁﾝｸﾞ（市内ほか）	雪形まつり実行委員会	岑村
5／25	塩の道を歩く（小谷）	山博友の会	岑村
5／31	初級ジュニア･リーダースクール 文化活動講義（山博）	中信地区スポーツ少年団連絡協議会	宮野
7／24～25	登山引率（針ノ木岳）	大町高等学校	関
7／25～27	夏山危急時対策講師	長野県山岳総合センター	柳澤
8／23	全日本登山体育大会での講演（白馬岳）	日本山岳協会	柳澤
8／28～29	登山引率（爺ヶ岳）	大町第一中学校	岑村
8／31	針ノ木の谷に遊ぼう（市内）	山博友の会子供探検クラブ	柳澤
9／17	観光ガイド講座講師　大町市	大町市観光課	千葉

	の山野草（市役所）		
10／2	姉妹都市友好親善議員交流会講演（市内）	大町市議会	柳澤
10／5	對山館トレック（市内）	山博友の会	岑村、関
10／5～6	ライチョウ生息状況調査調査員（南アルプス）	信州大学教育学部	宮野
10／25	体験学習の事前学習　ライチョウに関する講話（春日部市）	春日部共栄中学高等学校	宮野
11／16		山博友の会子供探検クラブ	柳澤
2／7～10	冬山入門講習会講師	長野県山岳総合センター	柳澤
2／20～22	山スキー講習会講師	長野県山岳総合センター	柳澤

（２）共催事業

①第２回北アルプス雪形まつり「北アルプス雪形フォーラム」（担当　関・岑村）

ａ．開催日：平成１５年５月１７日（土）

ｂ．場　所：山岳博物館　講堂

ｃ．主　催：第２回北アルプス雪形まつり実行委員会

ｄ．共　催：大町市 大町市教育委員会 大町市観光協会 大町市商工会議所
大町市芸術文化協会

ｅ．後　援：信濃毎日新聞社　大糸タイムス㈱　市民タイムス　民友信州
中日新聞社長野支局　朝日新聞長野支局　毎日新聞松本支局
讀賣新聞長野支局　産経新聞社長野支局　アルプスケーブルビジョン㈱　NHK
長野放送局　SBC 信越放送　㈱長野放送　㈱テレビ信州
長野朝日放送㈱　長野エフエム放送　大町市有線放送電話農業協同組合

ｆ．参加料：無　料

ｇ．参加者：約５０名

ｈ．出演者：納口恭明、長沢武、近田信敬

ｉ．次　第：第１部 講演 演題「雪形の魅力と可能性について」 13：40～14：30
講師　納口恭明（国際雪形研究会・日本雪氷学会）
第２部 懇談会「雪形 みんなでディスカッション!」14：40～15：50
中心テーマ「雪形で何ができるだろう？」
懇親パーティー（会費制）　黒部観光ホテル　18：00～20：00

ｊ．概　要：

第１部の講演では、講師の納口先生から雪形の持つ４つの魅力（①文化遺産、②科学、③国際性、④遊び）について、写真などを使ってわかりやすくお話いただいた。第２部の懇談会では、はじめに招待者の長沢武氏（山岳・山村民俗研究家）、近田信敬氏（写真家）から雪形との関わりについて、納口先生からは国際雪形研究会の説明をしていただいた。続いて、参加者の中から雪形に関する活動をされてきた方々にその実例について話をしてもらった。

渡辺逸雄氏（あづみ野雪形研究会）からは雪形ウォッチングについてなど、丸山優子氏（山博友の会子供探検クラブ）からは子供たちによる新しい雪形さがしについて話していただいた。その後、事前アンケートをもとに会場から意見をうかがった。

市民を中心とした参加者の方々には、雪形の楽しさや奥深さを知っていただく良い機会となった。また、新しい発想による雪形の楽しみ方や、雪形を観光や教育などの面でより活用する方法などについて、今後の活動につながるような様々な意見・提言が出された。

Ⅵ　友の会活動（担当　宮野）

１．組織

（１）役員

①会長…長沢正彦

②副会長…渡辺逸雄、有川劭

③運営部…部長：丸山卓哉　部員：倉科恵一、越山頼子、園田弘美、谷口澄子、佃廣幸
廣瀬誠、宮澤洋介、山崎一彦、川崎晃、川崎祐子
井口まり、塩瀬淳也、松坂美治子

④編集部…部長：宮沢洋介　部員：木村節子、丸山卓哉、岑村隆

⑤事務局…水口貴喜美代、塚田恵美子、田村佳美、宮野典夫

⑥監査…塚田千代美、有川美保子

（２）構成

①ファミリー会員…144 ファミリー、522 人

②個人会員…96 人

③学生会員…１人

④賛助会員…１団体

⑤終身会員…4 人

⑥名誉会員…5 名

平成 16 年 3 月 31 日現在

２．運営部活動

３月１６日（日）　平成 15 年度　総会
４月　３日（木）　役員総会
４月１６日（水）　第１回月例会
５月１６日（金）　第２回月例会
５月２５日（日）　塩の道を歩く　深原～中谷　埋橋をぬけて　23 名
６月１６日（月）　第３回月例会
７月　５日（土）　芦間川の探索～天女の舞/オオヤマレンゲを求めて　22 名
７月１６日（水）　第４回月例会
８月１６日（土）　第５回月例会
８月２３日（土）～２４日（日）
自然観察登山　五竜岳～唐松岳　10 名
９月１６日（火）　第６回月例会
１０月　５日（日）　史跡めぐり　對山館トレック　19 名
１０月１６日（木）　第７回月例会
１１月１６日（日）　第８回月例会
１２月１６日（火）　第９回月例会
１月１７日（土）　やしょうまづくり　第 10 回月例会　14 名
２月　８日（日）　歩くスキーと自然観察会　16 名
３月１４日（日）　平成 16 年度総会　25 名

３．事業部活動

（１）喫茶「こまくさ」の営業

営業期間は平成１５年４月１２日（土）～平成１４年１１月９日(日)

１階ホール脇スペースでのサービス提供

４．編集部活動

刊　行　物　名	発 行 日	主　な　内　容
ゆきつばき通信 号　外	4 月 16 日	行事案内…塩の道を歩くⅢ「深原～中谷　埋橋をぬけて」 博物館から…写生大会、小鳥の声を聞く会、志水哲也写真展「黒部」、安曇地方における絶滅危惧植物の生活史展
ゆきつばき通信 107 号	4 月 25 日	行事案内…塩の道を歩くⅢ「深原～中谷　埋橋をぬけて」 博物館から…写生大会、小鳥の声を聞く会、志水哲也写真展「黒部」、安曇地方における絶滅危惧植物の生活史展、北アルプス雪形フォーラム 報告…平成 15 年度友の会総会、総会記念講演要旨
ゆきつばき通信 号　外	6 月 16 日	行事案内…自然観察「芦間川の探索」～天女の舞／オオヤマレンゲを求めて、子供探検クラブ「河原で遊ぼう」
ゆきつばき通信 108 号	7 月 31 日	行事案内…自然観察登山「五竜岳～唐松岳登山」 博物館から…山博おもしろミニゼミ案内 事業報告…自然観察「芦間川の探索」、新入会員の紹介
ゆきつばき通信 109 号	9 月 20 日	行事案内…史跡めぐり「對山館トレック」 博物館から…キノコ学習会、クロツバメシジミの生活史展 中部山岳鳩協会展、山博おもしろミニゼミ 報告…自然観察登山「五竜岳～唐松岳登山」
ゆきつばき通信 110 号	12 月 25 日	行事案内…安曇地域の食文化「やしょうまづくり」、冬の自然観察「歩くスキーと自然観察会」、総会の案内 事業報告…史跡めぐり「對山館トレック」 博物館から…山博ゼミナール
ゆきつばき 第 32 号	3 月 14 日	特集…とっておきのビューポイント 友の会ひろば…行事参加者の感想 三角点…会員の投稿、雑感 行事グラフ…写真で綴る年間行事の紹介 サークルだより…烏帽子の会と子ども探検クラブの報告

5．サークル活動

（１）子供探検クラブ

野外活動を中心になんでもやってみようという小中学生のサークル

４月２０日（日）　鷹狩山トレッキングコースをつくろう（鷹狩山）
５月１１日（日）　こども雪形見っけ隊に参加（白馬方面）
６月　８日（日）　慎太郎祭に参加（針ノ木雪渓）
７月１３日（日）　河原で遊ぼう（鹿島川）
７月２６日（土）　カモシカの休日：山博おもしろミニゼミに参加（高瀬川支流、渋沢）
８月１・２日（金・土）　サバイバルキャンプ（鹿島川）
８月３１日（日）　針の木谷で遊ぼう（篭川）
１０月２６日（日）　ままこおとしへ探検だ（池田町）
１１月１６日（日）　ツリーハウスでイモ煮会（山の子村）
１月１０日（土）　追跡・カモシカ：山博おもしろミニゼミに参加（高瀬川支流、渋沢）
１月２５日（日）　ようこそ冬鳥パート１（木崎湖）
２月１４日（土）　ようこそ冬鳥パート２（犀川ダム湖）

（２）烏帽子の会

山歩きのサークル
「連れてってもらう登山」ではなく「連れてってやる山行」、「次はどの山に行こう」という雰囲気で身近な山に登るサークル
５月１８日（日）　雨引山（松川村）
７月１３日（日）　鉢盛山（朝日村）
９月２１日（日）　茶臼山（松本市）
１１月　９日（日）　岩殿山（生坂村）
１月３１日（土）　森林植物園（戸隠村）
３月２１日（日）　聖山の大展望

Ⅶ　その他

１．　第４回ライチョウ会議　（担当　清水）

平成１５年９月６日～７日の２日間、東京農業大学で、行政・研究者等のべ約 197 名が参加した。中部山岳に生息しているライチョウの解明をとおし、保護と人との共存の道を探る目的で、一部「総会」、二部「調査研究報告」・「関係機関のニホンライチョウ保護事業」として、それぞれの研究・活動報告、行政・研究者等との情報交換を行い、ライチョウ調査・研究の現状把握とその方向性を探った。２日目には一般者向けの講演・パネル討論を行った。今後、平成１５年より発足した NPO 法人ライチョウ保護研究会と協力し合い活動していく。当面事務局は大町市が行い、組織など会のあり方については昨年に引き続き検討を行う。次回会議開催の開催地は、岐阜県高山市で行う準備を進めている。

２．寄付について

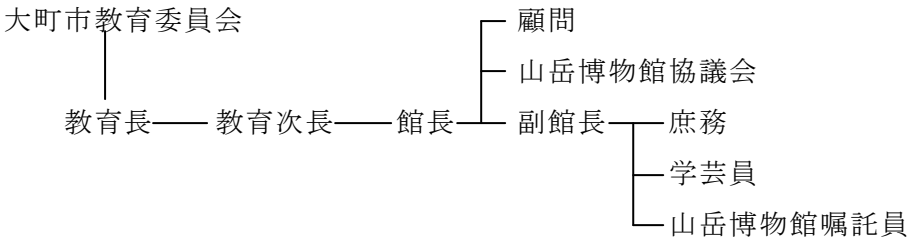
東京都八王子市の山岳団体・八王子岳友会（平成１５年１２月散会）から、当館の常設展示充実のため、１階ホールのピッケル展示用ケースの新設と３階展望室の全面リニューアル一式の寄付（265 万円相当）を受けた。寄付物品の内訳はピッケル展示用ケース１台、３階展望室の写真台５台、展示用平置きケース４台、展示写真一式、冷房設備一式である。

八王子岳友会･･･昭和 33 年（1958）創立。代表・篠繁市氏、会員約３０名。会員の高齢化や新入会員の不足といった理由から、平成１５年１２月をもって解散するにあたり、これまで積み立てた遭難対策費を山岳に関わる施設で役立てていただきたいとの意向から寄付の申し出をいただいた。

Ⅷ　運　営

1．組織および職員構成

（1）組織



（2）顧問

平林国男、千葉彬司

（3）山岳博物館協議会委員

学校関係者：増澤利定

社会教育関係者：武田武（会長）、有川美保子、松原繁、横川仁

知識経験者：藤沢秀（福会長）、飯沢茂雄、井口まり、金原義子、高石道明、朝重孝治

（4）職員名簿

館　長　柳澤昭夫（嘱託）

副館長　宮野典夫（学芸員および庶務兼務）

学芸員　（自然科学系）清水博文、千葉悟志

（人文科学系）岑村隆、関悟志

臨時職員（庶務）高橋純子

（動物飼育）菅沼光雄、横澤志津、倉間友恵、髙木康裕

（一般事業）鷲澤亜希子、井澤謙、掛巣武夫、上野杏奈

（5）人事異動

新規採用　鷲澤亜希子、井澤謙（平成 15 年 8 月 1 日）

掛巣武夫、上野杏奈（平成 15 年 11 月 1 日）

髙木康裕（平成 16 年 1 月 15 日）

退　　職　高橋純子（平成 15 年 9 月 29 日）

鷲澤亜希子、井澤謙、掛巣武夫、上野杏奈（平成 16 年 3 月 30 日）

髙木康裕（平成 16 年 3 月 31 日）

２．協議会

（１）第１回協議会

① 日時：平成１６年１月２９日午後１：30～４：00

② 場所：市立大町山岳博物館講堂

③ 出席者：武田武、藤沢秀、増澤利定、有川美保子、横川仁、松原繁、金原義子、飯沢茂雄
井口まり、朝重孝治
丸山一由、相沢文人、柳澤昭夫、宮野典夫、岑村隆、清水博文、千葉悟志、関悟志

④ 内容：・正副会長の選出

・報告

平成１５年度経過報告として入館者状況、展示事業、資料収集保管事業、動物飼育・傷病鳥獣保護事業、ライチョウ保護事業、教育普及事業、友の会活動、その他（ライチョウ会議、寄付について）

平成１６年度事業案として事業計画、予算

・協議

ライチョウ保護事業について、休館日について、ニッセイ財団からの助成について

３．入館者状況

（1）創立からの入館者状況

単位：人

年度	有料入館者							無料入館者			
	個人			団体			計	一般	市内		計
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生		減免	65～	小中	
昭和 26	291		100	21		77	489				
昭和 27	2,425		1,022	186		1,514	5,147				
昭和 28	8,922		2,229	725		1,216	13,092				
昭和 29	7,779		1,831	625		1,189	11,424				
昭和 30	6,831		1,664	1,445		945	10,885				
昭和 31	2,148		888	1,036		858	4,930				
昭和 32	1,934		658	826		1,880	5,298				
昭和 33	2,979		1,032	1,469		2,417	7,897				
昭和 34	2,972		626	1,727		1,788	7,113				
昭和 35	3,635		878	1,943		2,143	8,599				
昭和 36	4,181		1,329	2,132		2,521	10,163				
昭和 37	5,313		1,633	4,549		2,748	14,243				
昭和 38	6,394		1,854	4,727		2,918	15,893				
昭和 39	10,464		1,658	12,600		1,520	26,242				
昭和 40	14,214		1,696	8,050		1,600	25,560				
昭和 41	10,399		1,711	13,070		1,500	26,680				
昭和 42	12,891		1,649	8,301		3,059	25,900				

昭和 43	18,458		2,071	17,769		3,240	41,538				
昭和 44	16,273		2,100	10,845		3,749	32,967				
昭和 45	13,405		1,941	11,623		3,960	30,929				
昭和 46	18,414		3,001	14,718		3,193	39,326				
昭和 47	17,500		3,025	13,268		6,877	40,670				
昭和 48	25,809		4,178	22,612		5,774	58,373				
昭和 49	28,702		4,277	23,432		5,843	62,254				
昭和 50	32,345		4,896	23,616		6,835	67,692				
昭和 51	32,111		5,142	25,150		8,200	70,603				
昭和 52	26,155		4,311	18,907		5,327	54,700				
昭和 53	26,346		4,158	24,903		8,722	64,129				
昭和 54	27,769		4,485	25,089		6,600	64,003				
昭和 55	25,743		4,414	19,909		6,972	57,038				
昭和 56	31,697		7,558	16,182		9,695	65,132				
昭和 57	31,894	809	6,400	10,391	5,827	6,929	62,250	7,965			7,965
昭和 58	33,590	988	6,632	15,885	7,992	12,303	77,390	9,026			9,026
昭和 59	30,335	816	5,905	12,969	9,172	15,070	74,267	8,117			8,117
昭和 60	36,686	1,142	8,025	22,782	8,559	15,902	93,096	6,770			6,770
昭和 61	34,797	1,086	6,109	16,001	8,107	16,069	82,169	4,509			4,509
昭和 62	33,132	918	5,581	18,751	7,065	17,186	82,633	3,605			3,605
昭和 63	36,116	841	5,932	14,947	6,085	14,735	78,656	6,269			6,269
平成元	41,018	1,199	6,450	13,191	4,650	10,527	77,035	3,709			3,709
平成 2	43,444	1,108	6,752	16,486	3,045	7,119	77,954	4,844			4,844
平成 3	47,004	1,276	7,313	13,817	4,212	8,278	81,900	4,577			4,577
平成 4	42,197	725	5,719	13,068	1,687	7,015	70,411	3,413			3,413
平成 5	45,182	809	5,807	12,249	2,807	5,325	72,179	3,587			3,587
平成 6	38,354	933	4,809	10,561	1,932	4,974	61,563	3,376			3,376
平成 7	37,356	981	4,650	9,493	1,840	4,164	58,484	5,376			5,376
平成 8	36,002	869	4,189	6,601	1,905	2,244	51,810	2,174			2,174
平成 9	31,119	626	3,417	7,626	1,245	2,100	49,143	1,429			1,429
平成 10	28,219	637	3,105	6,023	764	2,006	40,754	1,686			1,686
平成 11	24,220	482	2,200	4,766	561	1,183	33,412	1,206			1,206
平成 12	23,082	501	2,273	5,344	648	1,024	32,874	1,187			1,187
平成 13	24,064	439	2,163	3,389	671	1,577	32,304	1,497	387	826	2,710
平成 14	20,497	472	1,744	2,580	675	808	26,776	990	190	443	1,623
平成 15	19,693	535	2,152	2,184	785	1,082	26,431	990	285	616	1,777

（２）平成 15 年度の入館者状況　　単位：人

月	有料入館者							無料入館者			
	個人			団体			計	一般	市内		計
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生		減免	65～	小中	
4 月	1,472	10	67	37	0	126	1,712	88	46	55	189
5 月	2,196	27	137	307	0	72	3,739	169	81	289	539
6 月	1,396	55	60	262	106	38	1,917	37	25	70	132
7 月	2,334	48	231	287	517	499	3,916	141	103	63	307
8 月	5,134	238	1,271	446	1	62	7,152	161	6	22	189
9 月	1,917	77	107	196	37	37	2,371	32	8	24	64
10 月	2,321	32	80	318	124	214	3,089	161	3	77	241
11 月	1,384	30	85	241	0	0	1,740	62	4	3	69
12 月	346	4	10	0	0	34	394	1	2	0	3
1 月	273	3	19	60	0	0	355	112	1	0	113
2 月	440	3	15	0	0	0	458	21	3	11	35
3 月	480	8	70	30	0	0	588	5	3	2	10
合計	19,693	535	2,152	2,184	785	1,082	26,431	990	285	616	1,891
14 年度	20,497	472	1,744	2,580	675	808	26,776	990	190	443	1,623
前年比	96%	113%	123%	85%	116%	114%	99%	100%	150%	149%	117%

４．平成 14 年度予算・決算

（1）歳入　　単位：円

項　目	観覧料	望遠鏡使用料	国庫補助金	国庫委託金	雑入	計
予算額	14,440,000	200,000	2,500,000	1,985,000	1,104,000	20,229,000
決算額	9,591,050	142,800	3,000,000	1,985,000	1,346,428	16,065,278
	△4,848,950	△57,200	500,000	0	242,428	△4,163,722

（2）歳出　　単位：円

項　目	総務費	一般事業費	ライチョウ等山岳動物保護管理費	計
予算額	48,869,000	5,397,000	11,766,000	66,032,000
決算額	48,117,099	8,791,564	14,881,531	71,790,194
	751,901	△3,394,564	△3,115,531	△5,758,194

Ⅸ　関係条例・規則等

１．市立大町山岳博物館条例

昭和 57 年３月 29 日
条例第 12 号

改正　昭和 61 年３月 24 日条例第８号　　平成元年３月 24 日条例第７号
平成４年３月 31 日条例第８号　　平成５年 12 月 24 日条例第 32 号
平成 12 年３月 29 日条例第 13 号　　平成 13 年３月 27 日条例第 13 号

市立大町山岳博物館条例（昭和 29 年条例第 18 号）の全部を改正する。

（目的）

第１条　この条例は、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号。以下「法」という。）第 18 条及び地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 244 条の２第１項の規定に基づき、博物館の設置及び管理運営に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

（設置）

第２条　山岳に関する資料並びにこの地方における民俗、歴史その他の資料を収集して、保管又は展示し、一般の観覧に供し、本邦における山岳文化等の普及並びにこれらの資料の調査研究を行うため博物館を設置する。

（名称及び位置）

第３条　博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名称　市立大町山岳博物館（以下「博物館」という。）

位置　大町市大字大町 8056 番地１

（職員）

第４条　法第４条の規定による館長、学芸員のほか必要な職員を置く。

２　必要に応じ顧問及び嘱託員を置くことができる。

（観覧料）

第５条　博物館を観覧しようとする者は、別表第１に定める観覧料を納付しなければならない。ただし、次に掲げる者は、この限りでない。

（１）　６歳未満の者

（２）　市内の小学校及び中学校に在学する児童又は生徒

（３）　市内に住所を有する満 65 歳以上の者

（使用料）

第６条　博物館の設備使用料は、別表第２に定めるとおりとする。

（観覧料の減免）

第７条　大町市教育委員会（以下「教育委員会」という。）は、特別な理由があると認めるときは、観覧料を減免することができる。

（資料の特別利用）

第８条　博物館資料を学術研究等のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

（賠償責任）

第９条　故意又は過失により、博物館の資料、施設等を破損し、又は滅失したときは、教育委員会の命ずるところにより、これを原状に復し、又は損害を賠償しなければならない。

（博物館協議会）

第 10 条　法第 22 条の規定により、市立大町山岳博物館協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

２　協議会の委員（以下「委員」という。）の数は、15 人以内とし、教育委員会が委嘱する。

３　委員の任期は、２年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委任）

第 11 条　この条例に定めるもののほか必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附　則

１　この条例は、昭和 57 年６月５日から施行する。

２　この条例施行の際、現に市立大町山岳博物館条例（昭和 29 年条例第 18 号）第５条の規定により委員として委嘱された者は、この条例第 10 条の規定により委嘱されたものとみなし、任期は、同条第３項の規定にかかわらず、昭和 58 年３月 31 日までとする。

附　則（昭和 61 年３月 24 日条例第８号）

この条例は、昭和 61 年４月１日から施行する。

附　則（平成元年３月 24 日条例第７号）

この条例は、平成元年４月１日から施行する。

附　則（平成４年３月 31 日条例第８号）

この条例は、平成４年４月１日から施行する。

附　則（平成５年 12 月 24 日条例第 32 号）

この条例は、平成６年４月１日から施行する。

附　則（平成 12 年３月 29 日条例第 13 号）

この条例は、平成 12 年４月１日から施行する。

附　則（平成 13 年３月 27 日条例第 13 号）

この条例は、平成 13 年４月１日から施行する。

別表第１（第５条関係）

種別	区分	単位	観覧料
一般	大人	１人	400 円
	高校生	〃	300
	小人	〃	200
団体 （30 人以上の場合をいう。）	大人	〃	350
	高校生	〃	250
	小人	〃	150

備考

特別の資料を展示する場合は、1,000 円の範囲内においてその都度教育委員会が定める額とする。

別表第２（第６条関係）

望遠鏡使用料	１回	100 円

２．市立大町山岳博物館規則

昭和 57 年３月 30 日
教育委員会規則第３号

改正平成元年３月 31 日教委規則第３号
平成９年 12 月 26 日教委規則第３号
平成 12 年３月 30 日教委規則第９号

（趣旨）

第１条　地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 33 条第１項及び市立大町山岳博物館条例（昭和 57 年条例第 12 号。以下「条例」という。）第 11 条の規定に基づき、市立大町山岳博物館（以下「博物館」という。）の管理運営並びに市立大町山岳博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（職務）

第２条　館長は、上司の命を受け、館を統括し、所属職員を指揮監督する。

２　学芸員は、館長の命を受け、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第４条第４項に規定する職務を遂行する。

３　その他の職員は、館長の命を受け、職務を遂行する。

４　館長を補佐するため、副館長を置くことができる。副館長は、係長相当職をもって充てる。

５　嘱託員は、学術に関する職務に従事する。

（休館日）

第３条　博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、臨時に開館又は休館することができる。

（１）　毎週月曜日

（２）　国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日の翌日（この日が月曜日に当たるときは、その翌日）

（３）　12 月 29 日から翌年１月３日までの日（前号に掲げる日を除く。）

（開館時間）

第４条　博物館の開館時間は、午前９時から午後５時までとする。ただし、教育委員会が特に必要と認めたときは、これを変更することができる。

（観覧券の交付）

第５条　条例第５条の規定による観覧料の納付があったときは、観覧券（様式第１号）に領

収印を押印し、交付するものとする。

（観覧料の減免）

第６条　条例第７条の規定による観覧料の減免を受けようとする者は、博物館観覧料減免申請書（様式第２号）を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。

（博物館資料の利用等）

第７条　条例第８条の規定により博物館の資料を利用しようとする者は、市立大町山岳博物館資料特別利用許可申請書（様式第３号）を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。

２　前項の規定による資料の利用期間は、30 日以内とする。ただし、教育委員会が必要と認めた場合は、延長することができる。

（入館制限等）

第８条　教育委員会は、次の一に該当するときは、入館を拒否し、退館を命じ、又は許可を取り消し、その他必要な措置を講ずることができる。

（１）　公の秩序又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。

（２）　管理上支障があると認められるとき。

（３）　その他教育委員会が必要と認めるとき。

（資料の寄贈及び寄託）

第９条　博物館は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。資料を寄贈及び寄託しようとする者は、博物館資料寄贈・寄託書（様式第４号）を教育委員会に提出するものとする。

２　寄託を受けた博物館資料は、寄託者の請求によりこれを返還する。

３　博物館は、寄託を受けた博物館資料が災害その他不可抗力によって滅失又は損傷した場合は、損害賠償の責を負わない。

４　寄贈又は寄託を受けた博物館資料は、一般の資料と同一の取扱いをするものとする。

（資料等の滅失・損傷）

第 10 条　館長は、博物館の資料、施設等が滅失又は損傷したときは、速やかに教育委員会に報告し、その指示を受けなければならない。

（協議会の組織）

第 11 条　協議会に、委員の互選による会長及び副会長各１名を置く。

２　会長は、会務を総理し、会議の議長となる。

３　副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。

（協議会の会議）

第 12 条　協議会の会議は、館長の諮問により会長が招集する。

２　協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

３　会議の議決は、出席委員の過半数の賛成がなければならない。

附　則

１　この規則は、昭和 57 年６月５日から施行する。

２　市立大町山岳博物館規程（昭和 29 年教育委員会規則第９号）及び市立大町山岳博物館協議会規程（昭和 29 年山岳博物館規程第１号）は、廃止する。

附　則（平成元年３月 31 日教委規則第３号）

この規則は、平成元年４月１日から施行する。

附　則（平成９年 12 月 26 日教委規則第３号）

この規則は、平成 10 年１月１日から施行する。

附　則（平成 12 年３月 30 日教委規則第９号）

この規則は、平成 12 年４月１日から施行する。

様式（省略）

Ｘ　利用案内

交　通

ＪＲ信濃大町駅から　タクシーで５分　歩いて２５分

長野自動車道豊科Ｉ.Ｃより　４０分

開館時間

午前９時～午後５時　※入館は午後４時３０分まで

休館日（平成１６年４月現在）

月曜日、祝日の翌日　※月曜日が祝日の場合は開館し翌日休館

７月～８月は無休

入館料

大人 400 円　　高校生 300 円　　小・中学生 200 円　※３０名以上の団体は各５０円割引

※そのほか各種割引あり

所在地と連絡先

〒398-0002　長野県大町市大字大町８０５６－１

ＴＥＬ：0261-22-0211／ＦＡＸ：0261-21-2133

E-mail：sanpaku@city.omachi.nagano.jp

URL：http://www2.city.omachi.nagano.jp/sanpaku/

市立大町山岳博物館　平成15年度年報

2004年7月〇〇日

編集･発行　市立大町山岳博物館

制作･印刷　奥村印刷